

令和3年度

# 「基礎学力調査」

－ 分析・考察と指導事例 －

令和3年10月  
石川県教育委員会

# 目 次

|                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| <b>本書の構成</b> . . . . .              | <b>1</b>  |
| I 教科に関する調査結果の分析・考察                  |           |
| II 質問紙調査結果の分析・考察                    |           |
| <br>                                |           |
| <b>本書の活用に当たって</b> . . . . .         | <b>2</b>  |
| <br>                                |           |
| <b>I 教科に関する調査結果の分析・考察</b> . . . . . | <b>3</b>  |
| 《小学校第4学年 国語》 . . . . .              | 6         |
| 《小学校第4学年 算数》 . . . . .              | 12        |
| 《小学校第6学年 社会》 . . . . .              | 20        |
| 《小学校第6学年 理科》 . . . . .              | 26        |
| 《中学校第3学年 社会》 . . . . .              | 34        |
| 《中学校第3学年 理科》 . . . . .              | 40        |
| 《中学校第3学年 英語》 . . . . .              | 46        |
| <br>                                |           |
| <b>II 質問紙調査結果の分析・考察</b> . . . . .   | <b>53</b> |
| 1 小学校第4学年児童の調査結果 . . . . .          | 55        |
| 2 学習・生活状況と正答率との関係 . . . . .         | 62        |
| 3 教員の調査結果 . . . . .                 | 64        |

# 本書の構成

## I 教科に関する調査結果の分析・考察

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

- ・全体的な結果の状況

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

- ・領域・分野ごとの結果の状況

児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

| 正答率            | 「到達状況」を示す記号、用語 |
|----------------|----------------|
| 90%以上の場合       | ◎：良好である        |
| 80%以上～90%未満の場合 | ○：概ね良好である      |
| 70%以上～80%未満の場合 | ◇：基準に到達している    |
| 60%以上～70%未満の場合 | ▽：十分とはいえない     |
| 60%未満の場合       | ▼：不十分である       |

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・指導改善のポイント

### (3) 改善に向けた指導事例

- ・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

|   | 項目       | 内容   |
|---|----------|--|
| ① | 問題と解答の状況 | ・設問番号，領域・分野，出題のねらい，評価の観点<br>・関連問題<br>・正答例，誤答例，正答率，誤答率，無解答率 |
| ② | 指導改善に向けて | ・解答状況の分析・考察<br>・指導改善の具体的なポイント                              |
| ③ | 改善事例     | ・学年，単元（指導内容等）<br>・指導のねらい<br>・具体例                           |

- ・関連する「<sup>プラス</sup>学びの12か条+」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

## II 質問紙調査結果の分析・考察

### (1) 小学校第4学年児童の調査結果

- ・設問ごとの経年比較，学年間比較

### (2) 学習・生活状況と正答率との関係

- ・正答率との関係を基にした分析・考察

### (3) 教員の調査結果

- ・設問ごとの経年比較

## 本書の活用に当たって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導に当たって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

The image shows a survey form with several sections and callouts:

- ① 参考となる他の指導事例**: Points to the '出題の趣旨' (Purpose of the question) section.
- ② 参考となる調査問題**: Points to the '問題の内容' (Question content) table.
- ③ 学習指導に当たって**: Points to the '指導改善のポイント' (Points for improvement) section.
- ④ 指導改善のポイント**: Points to the '指導改善のポイント' section.

Other callouts include:

- 学校正答率記入欄** (School correct answer rate entry field): Points to the '学校正答率' (School correct answer rate) column in the table.
- 学校正答率記入欄** (School correct answer rate entry field): Points to the '学校正答率' (School correct answer rate) column in the table.

| ○学校第○学年 教科                         |       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------------------------------------|-------|--------|-------|
| (1) 全体的な傾向の分析・考察                   |       | 〇〇.〇%  | %     |
| (2) 領域・分野ごとの分析・考察                  |       |        |       |
| 【領域・分野名】(県平均正答率: 〇〇.〇%) (学校正答率: %) |       |        |       |
| ◎: 出題の趣旨 [設問番号]                    |       |        |       |
| 設問番号                               | 問題の内容 | 県平均正答率 | 学校正答率 |
| ○                                  |       | 〇〇.〇%  | %     |
| ○                                  |       | 〇〇.〇%  | %     |
| ○                                  |       | 〇〇.〇%  | %     |

(県) H〇〇:事例〇 (全) R〇〇:〇〇

指導改善のポイント

..... (→ 事例1)

..... (→ 事例2)

### ① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

(全) … 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」に掲載されている事例

(県) … 「基礎学力調査—分析・考察—」に掲載されている事例

(P) … WEBサイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている事例

### ② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

(全) … 全国学力・学習状況調査で出題された問題

(県) … 本県の基礎学力調査で出題された問題

(P) … WEBサイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

### ③ 学習指導に当たって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

### ④ 指導改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導改善のポイントを記載しています。

# I 教科に関する調査結果の分析・考察



小学校 第4学年  
「国語」「算数」

小学校第4学年 国語

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 69.9%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は69.9%で、元年度より4.7ポイント上回ったが、到達状況は十分とはいえない。〔知識及び技能〕については、元年度より6.4ポイント上回っており、改善が図られている。「話すこと・聞くこと」領域についても、元年度より8.8ポイント上回っており、改善が図られている。一方、「読むこと」領域については、読んだ文章の一部を引用して、分かったことを説明することについては課題が見られ、指導の改善が必要である。また、「書くこと」領域においても、書いた文章を読み返し、間違いを直すことについては課題が見られ、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【知識及び技能】 (県平均正答率：77.3%) (学校正答率： %)

◎：主語と述語との関係について気付くこと〔三三〕

設問三三の正答率は、元年度の関連する設問の正答率を49.7ポイント上回り、良好である。今後も、主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くよう指導をすることが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容      | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------|--------|-------|
| 三三   | 主語と述語の照応関係 | 90.3%  | %     |

(県) R1：事例1

(全) R3：3三(2)イ (県) R2：三三

▽：修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解すること〔四〕

設問四の正答率は、元年度の関連する設問の正答率を12.4ポイント上回ったが、十分とはいえない。要因として、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解する指導が十分でないと考えられる。文中における修飾語の必要性に気付かせるとともに、語句の役割について理解させること、また、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾の関係について指導し、文の構成を理解させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容     | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-----------|--------|-------|
| 四    | 修飾と被修飾の関係 | 64.9%  | %     |

(県) R2：事例2

(全) R3：3三(2)オ (県) R2：四

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率：66.0%) (学校正答率： %)

◇：目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと、観点を明確にして、情報を整理すること〔一四〕

設問一四の正答率は、78.5%で基準に到達している。今後も、目的を意識して集めた材料を、共通点や相違点に着目して比べたり、共通する性質に基づいて分けたりして、伝え合うために必要な事柄として、より適切なものを見付ける指導を行うことが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容          | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------|--------|-------|
| 一四   | 必要な事柄を選ぶ、情報の整理 | 78.5%  | %     |

▽：聞いた事柄を基に分からない点を質問すること〔一三〕

設問一三の正答率は、平成30年度の関連する設問の正答率を29.3ポイント上回ったが、十分とはいえない。要因として、話の中心に関連して自分の知りたいことについて質問する指導が十分でないことが考えられる。話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を考えながら、質問する、復唱して確かめるなど学習活動を工夫することが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------|--------|-------|
| 一三   | 話の中心を捉える聞き方(聞き方の工夫) | 60.1%  | %     |

(県) H30：事例1 (P)2016：小3

(県) H30：一三



**【書くこと】** (県平均正答率：61.7%) (学校正答率： %)

○：書く内容の中心を明確にして、内容のまとまりで段落をつくること〔八2条件〕

設問八2条件の正答率は、元年度の関連する設問の正答率を3.0ポイント上回り、概ね良好である。今後も、条件に即して書く指導を意図的・計画的に行うことが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容              | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|--------------------|--------|-------|
| 八 2条件 | 文章全体における段落の構成 (条件) | 81.2%  | %     |

(県) H25：事例2

(県) R2：八2 R1：八2

▼：相手や目的を意識した表現に着目して、文や文章を整えること、漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うこと〔八2表記〕

設問八2表記については、p. 8参照。  
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容   | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------|--------|-------|
| 八 2表記 | 推敲 (表記) | 35.7%  | %     |

(県) H29：事例1 H24：事例1

(県) R2：八2

- ・書いた文章を推敲する学習において、〔知識及び技能〕の指導事項と関連を図り、文や文章を整えるように指導すること
- ・書いた文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いに気付いて正すことでよりよく伝わる文章になることを実感できるように指導すること

**【読むこと】** (県平均正答率：57.9%) (学校正答率： %)

◇：段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由との関係について、叙述を基に捉えること〔二1〕

設問二1の正答率は、元年度の関連する設問の正答率を16.6ポイント上回り、基準に到達している。今後も、段落相互の関係から文章全体の組み立てを捉え、それぞれの段落の役割について考える学習活動を行うことが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-----------------|--------|-------|
| 二 1  | 説明的な文章の構造と内容の把握 | 72.4%  | %     |

(県) H27：事例2

(県) R2：二2 R1：二2

▼：文章の一部を引用して、分かったことを説明すること〔二4〕

設問二4については、p. 10参照。  
指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------|--------|-------|
| 二 4  | 考えの形成、引用 | 13.5%  | %     |

(県) R2：事例1

(県) R2：二4 H28：二4

- ・目的を意識しながら、内容の中心となる語や文を見付けることができるように指導すること
- ・自分がまとめた文章を見直す際、必要となる語や文が抜けると文や文章の意味が異なることに気付くように指導すること

**指導改善のポイント**

- 〔知識及び技能〕の指導事項と関連を図り、文や文章を整える学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付け、分かったことをまとめる学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1・2・5

ア 事例1

〔知識及び技能〕の指導事項と関連を図り、文や文章を整える学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい   | 評価の観点               |
|-------|-------|--|---------------------|
| 四 2表記 | 書くこと  | ・相手や目的を意識した表現に着目して、文や文章を整えることができる。<br>・漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。 | ・思考・判断・表現<br>・知識・技能 |

四2 【はがきの下書き】の                      に、【つたえたいこと】の内容を文章にして書こうと思います。次のことに注意して、書きましょう。

- ※ 【つたえたいこと】の内容を全て使って書くこと。
- ※ 【つたえたいこと】の内容がより分かりやすくつたわるように、【分かりやすくつたえるための言葉】を、かならず一つは使って書くこと。
- ※ 「ぼくは、八十メートル走と大玉転がしとダンスに出ます。」につづけて書き、一つの段落で、八十字より多く書くこと。ただし、百字をこえないこと。

【つたえたいこと】

【分かりやすくつたえるための言葉】

- ・大玉転がしは、三年生とペアですること
- ・ダンスは、四年生みんなでおどること
- ・一生けんめい練習をしていること

- ・楽しい
- ・どきどきする
- ・わくわくする

| 正答例   | 誤答例  |              |
|---|--|--------------|
| ぼくは、八十メートル走と大玉転がしとダンスに出ます。大玉転がしは、三年生とペアでします。ダンスは、四年生みんなでおどります。見る人に楽しんでもらえるように、一生けんめい練習をしています。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・句読点を正しく打っていないもの</li> <li>・主語と述語の照応関係が明確でないもの</li> <li>・誤字や脱字のあるもの</li> <li>・同じ文を繰り返しているもの</li> </ul> |              |
| 正答率（準正答率）<br>35.7% (9.3%)   | 誤答率<br>56.2%   | 無解答率<br>8.1% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる」であり、正答率は35.7%と不十分である。この要因として、自分が書いた文章を読み返す習慣を付ける指導が不十分であることや、正しい表記について理解する指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、〔知識及び技能〕の指導事項と関連を図り、文や文章を整えられるよう指導することが必要である。また、句読点は適切に打ってあるか、述語に照応する主語が適切であるか、同じ文の繰り返しがないかなど、観点に沿って自分が書いた文章を読み返す習慣を付ける指導が必要である。

③ 改善事例 第2, 3学年 〔知識及び技能〕の指導事項と関連を図った「書くこと」の学習 光村図書・東京書籍

1 指導のねらい  
文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すことができる。

2 具体例

右のような「見直しカード」などを用いて、推敲の観点を示しておくことは、児童が見直す習慣を付けるための有効な手立ての一つだと考えられます。ただし、「③丸や点は正しくついている」「④主語と述語のつながりが合っている」の            について、児童は正しく捉えて、チェックしているのでしょうか。

見直しカード

だい ( )

名前 ( )

★正しく書けているか、自分で見直しましょう。

見直しカード

見直したら ( ) に○を書きましょう。

見直すこと

①字のまちがいが ( )

②ぬけている字が ( )

③丸や点は正しくついている ( )

④主語と述語のつながりが合っている ( )

⑤なうた漢字が ( )

**【知識及び技能】**

「丸、点、かぎ」(光村図書二年上 P85)  
「丸(。),点(。),かぎ(」)」(東京書籍二年上 P48・49)

**「書くこと」**

「すてきなところをつたえよう」(光村図書二年下 P127~132)  
「あそび方をせつ明しよう」(東京書籍二年下 P28~33)

← 関連 →

**指導のポイント**  
句読点を適切に打てるようにすること

どこに読点を打つと読みやすくなるのかな。

教科書で確認してみましょう。

主語の後に読点が打ってあります。

「まず」や「つぎに」の後も、読点が打ってあります。

文の中の切れ目や、順序を表す言葉の後に読点を打つと、文章が読みやすくなりますね。

文頭の接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など必要な箇所に読点を打つことができるように、その都度指導しましょう。

**【教師作成のモデル文】**

ぱたぱた船のあそび方  
ぱたぱた船は友だちときょうそうしてあそぶおもちゃです。ぱたぱた船のあそびかたについてせつ明します。  
まずスタートとゴールをきめておきます。  
つぎにスタートのところにぱたぱた船をおきます。それからはねをぐるぐる回したあとで手をはなすとぱたぱた船が走ります。ゴールにつくまでなんどはねを回してもいいです。早くゴールについた人が勝ちです。

「げんこう用紙のつかい方」(光村図書二年下 P138・139)(東京書籍二年上 P150・151)を活用し、このような表記※について指導します。

**【知識及び技能】**

「主語と述語に気を付けよう」(光村図書二年下 P27・28)  
「主語とじゅつ語」(東京書籍二年下 P26・27)

**「書くこと」**

「気持ちをこめて『来てください』」(光村図書三年上 P60~63)  
「案内の手紙を書こう」(東京書籍三年下 P30~33)

← 関連 →

**指導のポイント**  
・主語と述語のつながりが合うようにすること  
・同じ文を繰り返さないこと

**【教師提示の手紙】**

さわやかなきせつになりました。お元気ですか。ぼくは元気です。  
今度、ぼくが通う小学校で運動会が開かれますので、ごあんないします。

日時 五月二十七日(土)  
午前九時から午後二時  
場所 東小学校 運動場

ぼくは、ダンスとつな引きとリレーに出ます。  
ぜひ見に来てください。毎日、練習をしているので、運動会がわくわくします。どのしゅ目も力いっぱいがんばるので、ぜひ見に来てください。

「運動会」が「わくわくする」のでしょうか。

「わくわくする」のは、「運動会」じゃなくて、手紙を書いている人だと思っただけ。

ほかにも書き直した方がいいと思うところはありませんか。

「ぜひ見に来てください。」が2回繰り返されているので書き直すといいね。

**【書き直した手紙の文章】**

(略)

日時 五月二十七日(土)  
午前九時から午後二時  
場所 東小学校 運動場

ぼくは、ダンスとつな引きとリレーに出ます。  
ぜひ見に来てください。毎日、練習をしているので、「運動会がわくわくします。どのしゅ目も力いっぱいがんばるので、ぜひ見に来てください。」

自分の手紙も読み返して正しく直し、グループで見せ合ひましょう。

【知識及び技能】と関連を図って「書くこと」の指導を行うことで、推敲の観点に沿って、文や文章を整えられるようにしましょう。

イ 事例2

目的を意識して、中心となる語や文を見付け、分かったことをまとめる学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい                        | 評価の観点    |
|------|-------|-------------------------------|----------|
| 二 4  | 読むこと  | 文章の一部を引用して、分かったことを説明することができる。 | 思考・判断・表現 |

二 4 西さんは、調べて分かったことをしょうかいし合う活動の中で、山中さんから次のような質問を受けました。質問に対する西さんの答えについて、とにあてはまる言葉を、【図かん】からぬき出して書きましょう。

| 正答例                       | 誤答例  |      |
|---------------------------|--|------|
| ① カタツムリ<br>② からの中からだをひっこめ | ① ・スズメバチ<br>② ・からの中からだをひっこめて、身を守り<br>・からの中からだをひっこめてい<br>・中からだをひっこめ |      |
| 正答率（準正答率）                 | 誤答率  | 無解答率 |
| 13.5% (2.1%)              | 84.1%  | 2.4% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「文章の一部を引用して、分かったことを説明することができる」であり、正答率は13.5%と不十分である。誤答については、不必要な部分まで抜き出したり、一部を変えて抜き出したり、必要な語が抜けていたりする解答が見られた。この要因として、文章を読んで分かったことをまとめるために、目的を意識し、本文から内容の中心となる語や文を選び出す指導が不十分であることが考えられる。また、本文から抜き出した語や文を用いて、分かったことや考えたことをまとめた後、まとめた文章と本文とを比べる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、説明的な文章を読み、分かったことをまとめるために、語や文に着目させるような発問や問い返しをすることにより、内容の中心となる語や文を見付けさせる指導が必要である。また、分かったことをまとめた後、必要な語や文が抜けていた場合には、必要な語や文が抜けていない文章と比べ、文章の意味が異なることに気付かせる指導も必要である。

③ 改善事例 第3学年 文章を読んで感そうをつたえ合おう「自然のかくし絵」東京書籍三年上

1 指導のねらい

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。

(読むこと (1) ウ, 言語活動 ア)

2 具体例

言語活動：一番驚いた生き物の身の隠し方を紹介しよう

|      |     |              |   |
|------|-----|--------------|---|
| 単元計画 | 第一次 | 1<br>・<br>2  | 生き物の身の隠し方についてのブックトークを聞き、一番驚いた生き物の身の隠し方を紹介したいという意欲をもち、学習計画を立てる。  |
|      | 第二次 | 3<br>・<br>7  | 段落について知り、段落ごとに分ける。<br>1・2段落から保護色について読み取る。<br><u>3～7段落を読み、3種類の昆虫の身の隠し方から、一番驚いた昆虫の身の隠し方について、大事な言葉や文を選んでまとめる。</u><br>8～12段落を読み、保護色によって、どんな時でも身を守れるのか考える。 |
|      | 第三次 | 8<br>・<br>10 | これまでに読んだ本の中から、一番驚いた生き物の身の隠し方について、大事な言葉や文を選んでまとめ、友達に紹介する。  |

【目的を意識しながら、内容の中心となる語や文を見付ける学習】



一番驚いた昆虫の身の隠し方を短くまとめるために、どの段落から大事な言葉や文を見付けるとよいでしょうか。



ぼくは、コノハチョウの身の隠し方にびっくりしたよ。コノハチョウの身の隠し方は、4段落に書かれているよ。4段落から大事な文を見付けよう。どうしたら見付けられるのかな。

まず、コノハチョウの身の隠し方が書かれている文を見付けるために、どの言葉に注目したらよいのか考えてみましょう。

【語句に着目させる発問】



「木のえだにとまっている」に注目したらいいと思います。



「そのため、木のえだにとまっていると、えだにのこったかれ葉と見分けがつかありません。」の文に身の隠し方が書かれているのね。

木のえだにとまっていると、えだにのこったかれ葉と見分けがつかないのは、どうしてでしょうか。【文に着目させる問い返し】



コノハチョウの羽は、「かれ葉のような色」をしているからです。



「羽をとじたときの形も木の葉にそっくり」だからです。

「かれ葉のような色」、「羽をとじたときの形も木の葉にそっくり」と、「そのため、木のえだにとまっていると、えだにのこったかれ葉と見分けがつかありません。」を使って、コノハチョウの身の隠し方をまとめましょう。



【4段落】

たとえば、コノハチョウの羽は、表はあざやかな青とオレンジ色ですが、うらはは、かれ葉のような色をしています。それに、羽をとじたときの形も木の葉にそっくりです。そのため、木のえだにとまっていると、えだにのこったかれ葉と見分けがつかありません。

東京書籍三年上 P41 参照

【大事な言葉や文を使って分かったことをまとめ、本文と比べる学習】



見つけた大事な言葉や文を使って、一番驚いた昆虫の身の隠し方をまとめましょう。



ぼくが一番驚いた昆虫の身の隠し方は、コノハチョウです。コノハチョウの羽は、かれ葉のような色をしています。それに、羽をとじたときの形も、木の葉にそっくりです。だから、コノハチョウは、木の枝にとまって、枝に残ったかれ葉と見分けがつかないようにして隠れています。これでいいのかな。



「コノハチョウの羽は、かれ葉のような色」をしています。」とまとめているけれど、聞いた人は、コノハチョウの羽全体が、かれ葉のような色をしていると思ってしまうよ。



本文には、「コノハチョウの羽は、表はあざやかな青とオレンジ色ですが、うらはは、かれ葉のような色をしています。」と書いてあるよ。コノハチョウの羽は、うらだけがかれ葉のような色なんだね。



なるほど、「コノハチョウの羽のうらはは、かれ葉のような色」をしています」にしないと、内容が正しく伝わらないね。



「羽の表」と「羽のうら」では、色が違うので、必要な語が抜けると、文の意味が異なってしまいますね。

【文章の意味が異なることに気付かせる】



分かったことや考えたことをまとめた文章を見直すときには、本文と比較し、必要な語や文が抜けていないか確認させましょう。また、必要な語や文が抜けると、文や文章の意味が異なることに気付かせましょう。

【身の隠し方についてまとめたノート】

| コノハチョウ                                 |                              | 大事な言葉や文  |
|--|------------------------------|--|
| 見分けがつかないようにつまみまかせん。                    | にのこったかれ葉と                    |  |
| とまっていると、えだ                             | そのため、木のえだに                   | 羽をとじたときの形も木の葉にそっくり   |
| とまっていると、えだにのこったかれ葉と見分けがつかないようにつまみまかせん。 | にのこったかれ葉と見分けがつかないようにつまみまかせん。 | コノハチョウの羽は、 <sup>のうら</sup> かれ葉のような色をしています。それに、羽をとじたときの形も木の葉にそっくりです。だから、コノハチョウは、木のえだにとまって、えだにのこったかれ葉と見分けがつかないようにつまみまかせん。 |
|  |                              | 身のかくし方   |

## 小学校第4学年 算数

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 73.8%  |       |

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は73.8%で、元年度より0.9ポイント上回り、到達状況は基準に到達している。「データの活用」領域は、90.6%と良好である。また、時刻の読み取りについては、元年度より19.9ポイント上回っており、改善が図られている。

一方、【方法】【理由】【事実】について記述する設問は、全て正答率が60%未満であり、不十分である。言葉や数、式を用いて、筋道を立てて説明したり、論理的に考えたことを表現したりすることに課題が見られる。また、図形の定義を理解することにも課題が見られる。

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

**【数と計算】** (県平均正答率：75.8%) (学校正答率： %)

#### ◎：基本的な四則計算をすること〔1(1)(5)〕

設問1(1)(5)は、正答率がそれぞれ95.1%、97.1%であり、良好である。今後も、計算の技能については、算数科の基礎となる能力として確実に身に付くよう、児童の学習状況を見ながら、適宜練習の機会を設けたり、適切な反復による学習を位置付けたりして指導することが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容            | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------------|--------|-------|
| 1    | (1) 繰り上がりのない加法計算 | 95.1%  | %     |
|      | (5) 同分母分数の加法計算   | 97.1%  | %     |

(県) H28～R2：1

#### ▼：根拠を明らかにして、判断した理由を説明すること〔6(3)〕

設問6(3)については、p.14参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容                | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------------|--------|-------|
| 6    | (3) 根拠を明らかにした判断理由の説明 | 44.8%  | %     |

(全) H30：B5(1) (県) R1：3(1) H29：3

- ・判断の理由を考えさせる際には、情報を整理し、数量の関係を見いだすことができる指導の工夫をすること
- ・児童の表現を的確に評価し、適切な言葉や式を用いた表現に洗練させる指導を行うこと

**【図形】** (県平均正答率：64.8%) (学校正答率： %)

#### ○：円の中心、半径について理解すること〔6(1)〕

設問6(1)は、元年度の関連する設問と比べると、正答率は7.8ポイント上回っており、概ね良好である。今後も、コンパスを用いて、図形をかいたり、確かめたりする活動を重視するとともに、円を基にした模様づくりなどの具体的な活動を通して、円の中心と半径について理解を深める指導をすることが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-----------------|--------|-------|
| 6    | (1) コンパスの使い方の理解 | 82.2%  | %     |

(全) H28：B3(3) (県) R1：3(2) H29：7(1)

#### ▼：正方形の定義について理解すること〔2(6)〕

設問2(6)については、p.16参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容         | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------|--------|-------|
| 2    | (6) 正方形の定義の理解 | 36.7%  | %     |

(県) R2：事例1 (全) R1：1(1) (県) R2：2(4)

- ・図形の意味や性質について学習する際には、辺の長さや直角といった図形を構成する要素に着目させて指導を行うこと
- ・図形を構成する活動に取り組みさせる際には、図形を構成できない経験も大切に指導を行うこと

【測定】 (県平均正答率：67.5%) (学校正答率： %)

○：時刻を読むこと〔8(1)〕

設問8(1)は、元年度の関連する設問と比べると、正答率は19.9ポイント上回っており、概ね良好である。今後も、日常生活の中で時刻を読む機会を設定したり、時刻と日常生活を関連付けて捉えさせたりすることが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容   | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------|--------|-------|
| 8 (1) | 時刻の読み取り | 86.2%  | %     |

(県) R2：4(3) R1：7(1)

▼：全体・容器・正味の重さの関係を読み取ること〔2(5)〕

設問2(5)は、元年度の関連する設問と比べると、正答率は28.0ポイント下回っており、不十分である。全体の重さから容器の重さを引いていない誤答が多く見られる。この要因として、「(正味の重さ) = (全体の重さ) - (容器の重さ)」という関係を理解させる指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、容器などに入れて重さを量る場合に、正味の重さ、全体の重さ、容器の重さのそれぞれの数量に着目させ、その関係について理解できるように指導することが必要である。

| 設問番号  | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------------------|--------|-------|
| 2 (5) | 全体・容器・正味の重さの関係の読み取り | 52.0%  | %     |

(県) H25：事例2 (県) R2：4(2) R1：2(6)

【データの活用】 (県平均正答率：90.6%) (学校正答率： %)

◎：データを分類整理し、表に表すこと〔3(1)〕

設問3(1)の正答率は92.0%であり、良好である。今後も、身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり、読み取ったりする指導を充実することが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容         | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|---------------|--------|-------|
| 3 (1) | データの分類整理と表の作成 | 92.0%  | %     |

○：グラフからデータの特徴を読み取り、考察すること〔3(2)〕

設問3(2)の正答率は89.3%であり、概ね良好である。今後も、データを分析する際には、注目する観点を定めてデータの特徴を読み取り、事象について考察する指導を充実することが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容          | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|----------------|--------|-------|
| 3 (2) | データの特徴の読み取りと考察 | 89.3%  | %     |

指導改善のポイント

□ 数学的な表現を適切に用いて、判断の根拠を明確に示して説明する学習活動を充実すること (→ 事例1)

□ 図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解を深める学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

数学的な表現を適切に用いて、判断の根拠を明確に示して説明する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい                       | 評価の観点    |
|-------|-------|------------------------------|----------|
| 6 (3) | 数と計算  | 根拠を明らかにして、判断した理由を説明することができる。 | 思考・判断・表現 |

6 (3) 教室の後ろの黒板のたての長さは78cmでした。正方形のおりがみの1つの辺の長さは9cmです。このことから、はるなさんは次のように考えました。

黒板におりがみをすきまも重なりもなくならべてはると、たてには、黒板からはみ出さずにおりがみを8まいならべてはることができるね。



はるなさん

はるなさんの考えが正しいわけを、言葉と式を使って書きましょう。

| 正答例  | 誤答例   |                          |
|--|---|--------------------------|
| <p>【乗法を用いた説明】1つの辺の長さが9cmのおりがみを、8まいならべてはると、<math>9 \times 8 = 72</math>で、72cmになります。黒板のたての長さは78cmで72cmよりも長いからです。(だから、はるなさんの考えは、正しいです。)</p> <p>【除法を用いた説明】黒板のたての長さ78cmに、おりがみの1つの辺の長さ9cmがいくつ分あるかもとめると、<math>78 \div 9 = 8</math>あまり6で、おりがみは8まいならべてはることができるからです。(だから、はるなさんの考えは、正しいです。)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <math>9 \times 8 = 72</math></li> <li>• <math>9 \times 8 = 72</math> だから 72 cm よりも 78 cm の方が長い。</li> <li>• <math>78 \div 9 = 8</math> あまり 6</li> <li>• 6 cm あまっているから、はるなさんの考えは正しくない。</li> <li>• 8 cm あまり 6 cm</li> </ul> |                          |
| <p>正答率(準正答率)</p> <p>44.8%(14.3%)</p>   | <p>誤答率</p> <p>37.3%</p>   | <p>無解答率</p> <p>18.0%</p> |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「根拠を明らかにして、判断した理由を説明することができる」であり、正答率は44.8%と不十分である。また、無解答率は18.0%である。誤答については、式のみを記述したもの、式や数が何を表しているか判断の理由が不明確なものなどが見られる。この要因として、問題文から情報を読み取り整理させる指導や、判断の根拠を明確にして説明させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、読み取った情報を図や言葉を用いて整理させ、それを用いて数量の関係を見いださせることが必要である。さらに、言葉や式を使って表現させる際に、式や数の意味を明らかにする問い返しや、表現で不足している部分を補完するための発問を行い、説明に必要な事柄に気付かせる指導も必要である。

③ 改善事例 第3学年「あまりのあるわり算」

1 指導のねらい

判断した理由を、根拠を明確にして説明することができる。

2 具体例

判断した理由を説明する活動

横はばが60cmの本立てにじてんをならべます。じてん1さつのあつさは7cmです。このことから、みきさんは、「本立てにじてんをつめてならべると、本立てからはみ出さずに8さつならべることができる。」と言いました。みきさんの考えが正しい理由を、言葉と式を使って説明しましょう。



**【除法を用いて理由を説明する場合】**

**① 情報を読み取る**

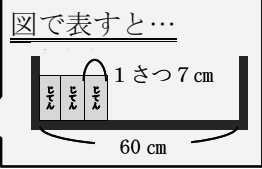
情報を整理させる問い  
問題文から、分かることを整理しましょう。

何を答える問題ですか。

本当に8冊並べられますか。

言葉で表すと…

- ・ 横幅が 60 cmの本立て
- ・ 辞典 1 冊の厚さが 7 cm
- ・ 辞典は 8 冊並べられる



「本立てに辞典を8冊並べることができる」ことが正しいかどうかを説明する問題です。

並べられます。  
 $60 \div 7 = 8$  あまり 4 だからです。

**② 根拠を明らかにする**

式の意味を考えさせる問い  
なぜ、わり算を使って説明したのですか。

あまりの意味に着目させる問い  
「4」は何を表していますか。

なるほど。「8冊並べることができる」という言葉も必要ですね。

わり算を使うといくつ分を求められるからです。

商の「8」は8冊分ということだから、辞典を8冊並べられるということが分かったわ。

60 cmの本立てに厚さ7 cmの辞典を8冊並べたときのあまりだから、「4」は本立てと辞典のすきまの長さです。

説明をした後に、「8冊並べることができる」という言葉も必要よ。

(図) 1 さいつ 7 cm 8 さいつ すきま 4 cm

60 cm

(式)  $60 \div 7 = 8$  あまり 4

問題場面と図、図と式を関連付けて、問題場面の数量の関係を捉えることができるよう、意図的に問うことが必要です。

**③ 言葉と式を用いて表現する**

みきさんの考えが正しい理由を言葉と式を使って説明しましょう。

$60 \div 7 = 8$  あまり 4 だから、8冊並べることができます。

(問いかけの例) 「他にどんな言葉が必要かな。」

言葉や式を用いて理由を説明させる場合、不十分な表現に対しては、その場で問い返し、適切な言葉や式を用いた表現に洗練させましょう。

本立ての横幅は 60 cm で、辞典の厚さは 1 冊 7 cm だから、 $60 \div 7 = 8$  あまり 4 です。8 は辞典の冊数で、4 は本立てと辞典を 8 冊並べたときのすきまの長さなので、本立てには辞典を 8 冊並べることができます。だから、みきさんの考えは正しいです。

**【乗法を用いて理由を説明する場合】**

みきさんの考えが正しい理由を言葉と式を使って説明しましょう。

$7 \times 8 = 56$  だから、本立てには8冊並べることができます。

(問いかけの例) 「 $7 \times 8 = 56$  の『56』は何を表していますか。」

56 cm だったら、どうして正しいといえるのかな。

厚さ 7 cm の辞典を 8 冊並べると、 $7 \times 8 = 56$  で 56 cm です。本立ての横幅は 60 cm で、56 cm より長いから、辞典を 8 冊並べることができます。だから、みきさんの考えは正しいです。

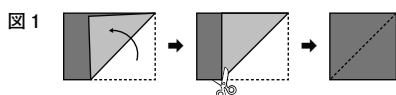
イ 事例2

図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解を深める学習活動を充実すること

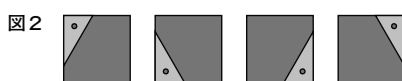
① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい            | 評価の観点 |
|-------|-------|-------------------|-------|
| 2 (6) | 図形    | 正方形の定義について理解している。 | 知識・技能 |

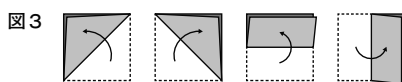
2 (6) 長方形の紙を図1のようにおって切り、四角形を作りました。



めいさんたちは、かどの形を図2、辺の長さを図3のように調べました。



四角形のかどと三角じょうぎのかどがぴったり重なるよ。  
めいさん



四角形の辺と辺を重ねるとぴったり重なるよ。  
たくやさん

次の①、②にあてはまる言葉をそれぞれ書きましょう。



できた四角形は、正方形だね。  
4つのかどがみんな①で、4つの辺の長さがみんな②  
四角形を正方形というからだよ。

| 正答例          | 誤答例        |      |
|--------------|------------|------|
| ①直角 ②同じ      | ①同じ ②ぴったりの |      |
| 正答率(準正答率)    | 誤答率        | 無解答率 |
| 36.7% (1.3%) | 59.2%      | 4.1% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「正方形の定義について理解している」であり、正答率は36.7%と不十分である。誤答については、4つのかどについて「直角」と書くべきところを「同じ」と書いたものが多く見られる。この要因として、図形の意味や性質について正しく理解させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、辺の長さや直角といった図形を構成する要素に着目させ、その図形についての理解を深めていく数学的活動を充実させるとともに、定義と異なる表現を児童が用いた際には、定義で用いられる表現を改めて指導することが必要である。

なお、図形を構成する活動に取り組みさせる際には、図形を構成できない経験も大切にし、どうすれば正しく構成できるのかを考えさせる過程で、構成の仕方を明確にさせることも必要である。

③ 改善事例 第2学年「三角形と四角形」

1 指導のねらい

図形を構成する要素に着目する活動を通して、図形の意味や性質を正しく理解することができる。

2 具体例 正方形を構成する活動

〈1人分のひご〉

4本のひごがあります。このひごを使って正方形をつくりましょう。



この4本だと、正方形が作れないよ。

そうだね。ひごの長さが違うから作れないね。

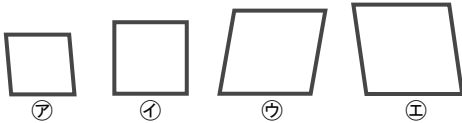
4本のひごの長さが同じなら作れるのにな。

**構成する要素（辺の長さ）に着目させる問い**  
 どうして、4本のひごの長さを同じにすると正方形が作れるのですか。

正方形は、「4つの辺の長さがみんな同じ」だからです。

なるほど。  
 では同じ長さのひごを4本集めて、正方形を作りましょう。

グループでひごを交換して、同じ長さのひごを4本集めたらどうかな。



作ることができたよ。

本当に正方形になっているのかな？

**構成する要素（直角）に着目させる問い**  
 同じ長さのひごを4本使っているのに、どうして㊨は正方形ではないと思うのですか。

㊨は正方形ではないと思うよ。

4つのかどの形がどうなっていれば正方形といえるのですか。

4つのかどの形が違うからです。

4つのかどの形が、みんな同じになっていけば正方形といえます。

**定義で用いられる表現を確認させる問い**

なるほど。みんな同じなんですね。「正方形の約束」では、どんな言葉を使っていましたか。

「4つのかどがみんな直角」です。

直角になっているか、確かめるにはどんな方法がありますか。

三角定規の直角を当てると、4つのかどがみんな直角になっているかを確認することができます。



㊦と㊨もかどが直角ではないから、正方形ではないね。

**図形を正しく構成できているかを確認させる問い**

みなさんが作った四角形は、4つのかどがみんな直角になっていますか。

私の作った四角形も4つのかどがみんな直角になっているか、確かめてみよう。

かどの形を確かめたら、直角ではなかったよ。三角定規の直角を当てながら正方形を作るといいね。

**構成の仕方を明確にさせる問い**

正方形を作るときに大切なことは何ですか。

「4つのかどをみんな直角にすること」と「4つの辺の長さをみんな同じにすること」です。

**【図形の意味や性質についての理解を深めるために】**

- ・ 図形を構成する要素に着目させたり、定義で用いられている表現を確認させたりするために、意図的に問うことが必要です。
- ・ 図形を正しく構成できているかを確認させ、どうすれば正しく構成できるのかを考えさせる過程で、構成の仕方を明確にさせることが必要です。





小学校 第6学年  
「社会」「理科」

## 小学校第6学年 社会

| 県平均正答率 | 学校正答率 |
|--------|-------|
| 65.1%  | %     |

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は65.1%で、元年度より5.3ポイント下がり、到達状況は十分とはいえない。飲料水を供給する事業の様子については、概ね良好であった。しかし、複数の資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現することについては、依然として課題が見られ、指導の改善が必要である。

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

#### 【地域学習】

(県平均正答率：73.4%) (学校正答率： %)

○：飲料水を供給する事業の様子について理解することや、飲料水を供給する事業に関する情報を資料から読み取ること〔4(1)(2)〕

設問4(1)(2)の正答率については、概ね良好である。今後も、文と図を関連させて読み取ったり、グラフから適切に読み取った複数の情報を関連付けて表現したりするなどの基礎的な知識・技能の定着に向けた指導が大切である。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率   | 学校正答率 |   |
|------|-------|----------|-------|---|
| 4    | (1)   | 浄水場のはたらき | 80.5% | % |
|      | (2)   | 水道使用量の変化 | 92.8% | % |

(県) R2：事例1

(県) H30：6(1)(2) H27：3(1)(2)

○：水道水の有効利用について、節水など自分たちができることを選択・判断すること〔4(3)〕

設問4(3)の正答率については、概ね良好である。今後も、日常の生活場面から、具体的な行動を考え表現する活動を通して、選択・判断する力を育成することが大切である。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率        | 学校正答率 |   |
|------|-------|---------------|-------|---|
| 4    | (3) A | 節水の工夫(生活場面)   | 86.1% | % |
|      | (3) B | 節水の工夫(具体的な行動) | 85.5% | % |

(県) R2：事例1

(県) H30：6(3) H27：3(3)

▼：販売の工夫について、複数の資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現すること〔6(3)〕

設問6(3)については、p.22参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------|--------|-------|
| 6    | (3) 消費者の願いと店の工夫(安心) | 14.9%  | %     |

・資料、特に図表の読み取り方(事実と解釈を分けて読み取ること)を習得させ、複数の資料から読み取った情報を関連付けたり、人々の生活との関連を考えたりするなどの学習活動を工夫すること

#### 【産業と国土】

(県平均正答率：58.3%) (学校正答率： %)

▽：日本の工業や貿易の様子について、資料から読み取った情報と習得した知識を関連付けて、適切に表現すること〔3(1)(2)〕

設問3(1)(2)の正答率については、十分とはいえない。指導に当たっては、位置や地形、広がりなど、地理的な見方に着目しながら、白地図等を活用して表現するなどの学習活動を工夫する必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率           | 学校正答率 |   |
|------|-------|------------------|-------|---|
| 3    | (1) A | 日本の工業(機械工業)      | 83.6% | % |
|      | (1) B | 日本の工業(せんい工業)     | 68.4% | % |
|      | (2) ① | 日本の工業地帯と分布       | 61.4% | % |
|      | (2) ② | 日本の工業の特色(太平洋ベルト) | 72.5% | % |
|      | (2) ③ | 日本の工業の特色(海上輸送)   | 60.6% | % |

▼：地図帳を活用して、我が国の位置と領土について調べ、適切に情報を読み取ること〔2(1)〕

設問2(1)の正答率については、不十分である。地図帳を活用して、我が国の位置と領土について捉え、方位や、緯度と経度を使って表現させる指導が不十分であったと考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容                | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------------|--------|-------|
| 2    | (1)① 日本の位置と領土(方位)    | 59.7%  | %     |
|      | (1)② 日本の位置と領土(大韓民国)  | 61.5%  | %     |
|      | (1)③ 日本の位置と領土(西端の経度) | 15.3%  | %     |

(県) R2 : 2(2) H30 : 2(2) H29 : 2(2) H28 : 2(2)  
H27 : 2(1)

- ・地図帳や地球儀などを活用する学習活動を意図的に取り入れ、我が国と主な国々、大陸や海洋などの位置関係について、方位や、緯度と経度などを用いて表現する学習活動を工夫すること

▼：複数の資料から読み取った情報を基に考察し、適切に表現すること〔2(2)5(1)〕

設問2(2)の正答率については、不十分である。季節風と降水量の関係について考察し、図を用いて表現する学習活動を工夫する必要がある。また、設問5(1)については、p.24参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容              | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------|--------|-------|
| 2    | (2)C 日本の気候の特色(降水量) | 41.6%  | %     |
|      | (2)D 日本の気候の特色(季節風) | 38.1%  | %     |
| 5    | (1) 日本周辺の海の様子      | 43.1%  | %     |

(県) H27 : 1(4)

- ・地図帳や各種の複数の資料から得た情報について、社会的な見方・考え方を働かせて考察し、白地図や図表等にまとめて表現する学習活動を工夫すること

▼：持続可能な漁業について、生産者の立場から考察し、適切に表現すること〔5(5)〕

設問5(5)の正答率については、不十分である。産業の学習では、資源保護などの持続可能な取組について考察する学習活動を工夫する必要がある。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容               | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------|--------|-------|
| 5    | (5) 水産業の発展(持続可能な漁業) | 34.5%  | %     |

- ・持続可能な社会づくりの観点から、これからの産業の発展や課題について考え、表現する学習活動を工夫すること

## 指導改善のポイント

- 複数の資料から読み取った情報を、自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する学習活動を工夫すること (→ 事例1)
- 地図帳や各種の資料から得た情報を、位置や地形、広がりや分布などに着目して考察し、白地図等にまとめて表現する学習活動を工夫すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1・3

ア 事例1

複数の資料から読み取った情報を、自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい                                  | 評価の観点               |
|-------|-------|---|---------------------|
| 6 (3) | 地域学習  | 販売の仕事の工夫について、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる。 | ・知識・技能<br>・思考・判断・表現 |

- 6 (3) 店長さんが、他の地域からの野菜だけではなく、たかしさんの地域で生産されている野菜なども売っていることを教えてくださいました。たかしさんは、これもお客様の願いと結びつけたスーパーマーケットの工夫だと考えました。資料2と資料3をもとに、この工夫がお客様のどのような願いと結びついているか書きましょう。

[資料2] 生産者がわかる表示

[資料3] 地域の生産者である山田さんのつくったトマトがお店にならぶまで

**私がつくりました！**



石川県〇〇産  
トマト

生産者 山田 太郎  
住所 石川県〇〇市△△町在住

|         |             |
|---------|-------------|
| 午前6時    | トマトをしゅうかくする |
| 午前7時40分 | トマトをふくろづめする |
| 午前8時10分 | トマトをお店に届ける  |
| 午前8時30分 | トマトをたなにならべる |

| 正答例  | 誤答例   |       |
|--|---|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者を知りたいという願いと朝とれたおいしいトマトを食べたいという願い。</li> <li>・新鮮なものを安心して買いたい(食べたい)という願い。</li> <li>・地元の生産者がつくった新鮮でおいしいものを食べたいという願い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者が分かると安心して買うことができる。</li> <li>・地元産なので安心できる。</li> <li>・新鮮なものを食べたい。</li> </ul> |       |
| 正答率(準正答率)  | 誤答率   | 無解答率  |
| 14.9%(4.4%)  | 64.0%   | 21.1% |

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「販売の仕事の工夫について、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、正答率は14.9%と不十分である。また、無解答率も21.1%と高い。本設問は、2つの資料を関連付けて表現することが必要だが、誤答の多くは、「生産者が分かると安心して買うことができる。」や「地元産なので安心できる。」など、資料2から読み取れる情報のみの解答であった。この要因として、複数の資料から情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて表現する活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、提示した複数の資料から正確に情報を読み取り、それらの情報を関連付けて考え、表現する学習活動を工夫していくことが必要である。その際、読み取った情報と自分たちの生活との関連について考えたり、話し合ったりしたことを表現する学習活動も取り入れる必要がある。



③ 改善事例 第3学年「火事からくらしを守る」

1 指導のねらい

複数の資料から読み取った情報を、自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現する力を育成する。

2 具体例

(1) 消防士たちは毎日どのような活動をしているのかを資料から読み取る。

【学習問題】〈消防士は、火事がない時にどのような活動をしているのかな〉

**ポイント1：**・消防士の働きが分かる具体的な資料を読み取らせ、「なぜ（何のために）、その活動を行っているのか」と問い返し、その意味を考えさせる。  
・分かること（事実）と、そこから考えられること（解釈）を表現させる。

消火や救助の訓練を毎日しています。

なぜ、毎日訓練を行っているのかな？

いつ火事が起きても人々を守るように毎日訓練しているんじゃないかな。

【資料1】

消防士の一日の様子

朝から引き継ぎをしています。それに、車両や消火設備の点検もしています。

引き継ぎは、何のためにやっているのかな？

交代しながら働いているから引き継ぎが必要なのかな。

(2) 複数の資料から読み取った情報を基に考察し、表現する。

**ポイント2：**他の資料を提示し、最初に読み取ったことと関連付けて考えさせる。「なぜ」「何のために」活動しているのかを意識させる。

**ポイント3：**自分たち地域住民にとって、消防士の活動はどのような役割を果たしているのかを考えさせ、キーワードで整理させる。

予想したことが正しいかどうか、次の資料を基に考えてみましょう。どの資料とつなげると考えることができますか。また、消防士の活動は、私たちの生活にとってどんな点が役立っていると考えられますか。

資料2からは、毎日の訓練の理由が分かるよ。できるだけ早くかけつけ、素早く消火できるように、訓練や用具の点検を行っているね。命や財産を守ってくれているから、安心してくらせるね。

【資料2】

消防署の方の話

<キーワード> 安心

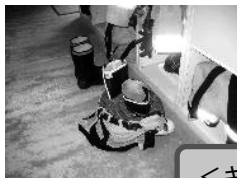
【資料3】勤務表

|      | 8:30 | 8:30 | 8:30 | 8:30 | 8:30 |
|------|------|------|------|------|------|
| 5月   | 1日   | 2日   | 3日   | 4日   |      |
| 田中さん | 当番   | 非番   | 休み   | 当番   |      |
| 山本さん | 休み   | 当番   | 非番   | 休み   |      |
| 小林さん | 非番   | 休み   | 当番   | 非番   |      |

<キーワード> 24時間ごとに交代で働く

資料3を見ると、全員がそろうことがないね。だから、引き継ぎが必要なんだね。24時間ごとに交代して働いてくれているから僕たちも安心だね。

【資料4】ズボンとくつの写真



資料4のように、ズボンとくつと一緒にロッカー前に置かれているのはなぜかな？

火事が起こったときに、すぐに着替えられるようにするためだと思うよ。私たちの命を守るために、すぐに出動できる準備をしてくれているから安心だね。

<キーワード> すぐに出動

(3) キーワードを基に、資料を関連付けて学習のまとめをする。

みんなが安心して生活することができるように、消防士は、いつでもすぐに出動できるよう、毎日、訓練や用具の点検をしたり、24時間ごとに交代しながら働いてくれたりしている。

資料から分かったことをつなげて、まとめることができましたね。

イ 事例2

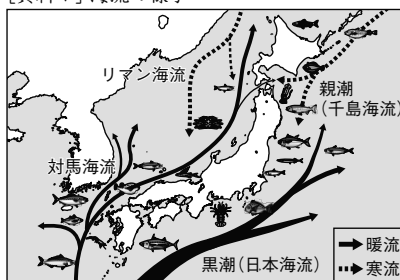
地図帳や各種の資料から得た情報を、位置や地形、広がりや分布などに着目して考察し、白地図等にまとめて表現する学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

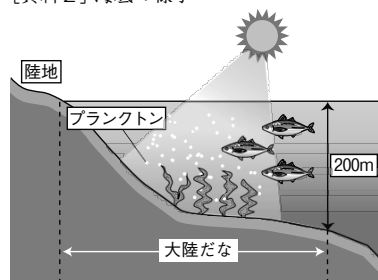
| 設問番号  | 領域・分野 | 出題のねらい               | 評価の観点 |
|-------|-------|----------------------|-------|
| 5 (1) | 産業と国土 | 日本周辺の海の様子について理解している。 | 知識・技能 |

5 (1) あやさんは、日本のまわりの海の様子について調べました。資料1と資料2をもとに、日本のまわりの海の様子としてあてはまるものを、あとのア～エから2つ選び、その記号を書きましょう。

[資料1] 海流の様子



[資料2] 海底の様子



- ア 太平洋には、暖流の黒潮(日本海流)と寒流の親潮(千島海流)が流れている。
- イ 陸地のまわりには、水深が200mよりも深いところに大陸だなが広がっている。
- ウ あたたかい海にすむ魚だけが集まってくるので、陸地のまわりにある大陸だなでは、魚のえさとなるプランクトンが豊富である。
- エ 暖流や寒流がぶつかるところや海そうがよく育つ大陸だなでは、えさになるプランクトンが多く、たくさんの魚が集まるよい漁場になっている。

| 正答例   | 誤答例          |      |
|-------|--------------|------|
| ア, エ  | ア, イ    ア, ウ |      |
| 正答率   | 誤答率          | 無解答率 |
| 43.1% | 54.7%        | 2.2% |

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「日本周辺の海の様子について理解している」であり、正答率は43.1%と不十分である。この要因として、それぞれの資料から情報を正確に読み取ったり、読み取った情報を関連付けて考察したりする学習活動が不十分であったため、正答であるエを選択できなかったと考えられる。

指導に当たっては、地図帳や各種の資料から読み取った情報を白地図や図表等へ書き込み、そこから得た気付きや疑問について、位置や地形、広がりや分布などに着目して考察したことを、白地図や図表等にまとめて表現する学習活動を工夫していくことが必要である。その際、読み取った情報を既習の知識と関連付けさせることも必要である。

③ 改善事例 第5学年「我が国の工業生産」

1 指導のねらい

地図帳や各種の資料から得た情報を、位置や地形、広がりや分布などに着目して考察し、白地図等にまとめて表現する力を育成する。

2 具体例

(1) 工業生産のさかんな地域を白地図に書き込む。

【学習問題】〈工業のさかんな地域は、日本のどこにあり、どのように広がっているのかな〉

ポイント1：教科書や資料で調べて分かったことを白地図に書き込み、特徴を読み取る。



工業のさかんな地域を白地図に書き込もう。どんな特徴が分かるかな。



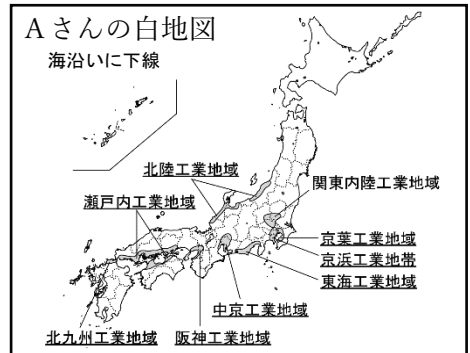
主な工業地帯や工業地域は、海沿いに広がっているよ。



海沿いだけでなく内陸部にも工業のさかんな地域があるよ。



工業のさかんな地域が、このように広がっているのはどうしてかな。



(2) 工業がさかんな理由を白地図にまとめる。



なぜ、工業のさかんな地域が海沿いや内陸部に広がっているのでしょうか。前の授業で学んだ工業の種類を基に、どんな工業がさかんなのかも調べてみましょう。

ポイント2：位置や地形、広がりや分布に着目し、立地場所と交通手段を関連付けて考え（波線部）、白地図にまとめる。

海沿いの工業地域  
〈写真資料〉

海沿いの工業地域は機械や化学が多いね。海沿いなのは原材料や燃料、製品などを船で運ぶのに便利だからだと思うよ。



内陸の工業地域も機械が中心だね。内陸部の工業地域が高速道路周辺に発展しているのは、トラックで運びやすいからだよ。

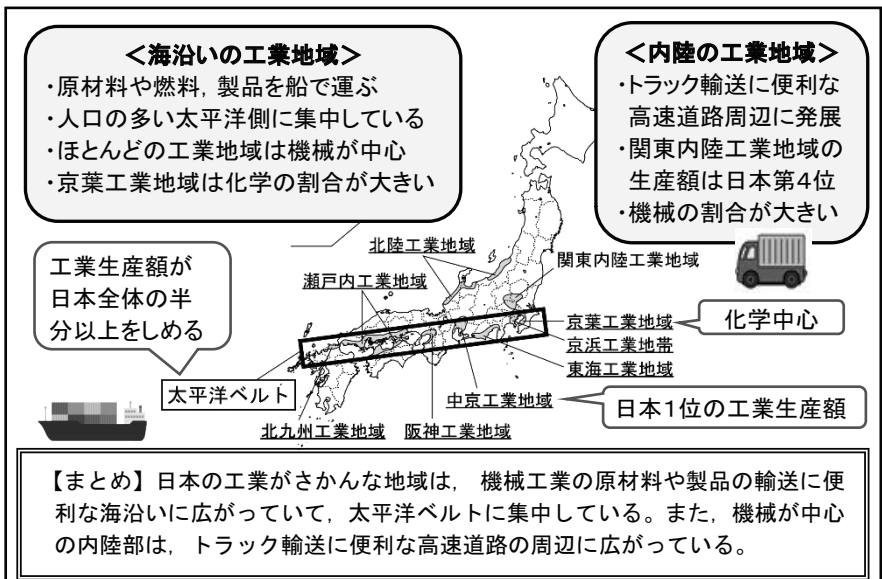
内陸の工業地域  
〈写真資料〉

(3) 白地図を基に交流し、学習のまとめをする。



私は、海沿いの工業地域と内陸の工業地域の発展の理由と主な工業の種類について、それぞれまとめました。船での輸送に便利だから海沿いに工業のさかんな地域が集中しています。内陸部はトラック輸送がしやすい高速道路周辺に広がっています。海沿いの工業がさかんな地域は太平洋ベルトと呼ばれ、工業生産額が日本全体の半分以上をしめることが分かりました。

Aさんの白地図



小学校第6学年 理科

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 63.6%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は63.6%で、元年度より0.3ポイント下がり、到達状況は十分とはいえない。月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過を関連付けて考察する問題については改善が見られる。しかし、科学的な言葉を用いて適切に表現することや予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現する問題については依然として課題が見られ、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【物質・エネルギー（エネルギー）】

(県平均正答率：53.1%) (学校正答率： %)

▽：乾電池を2つ使った直列つなぎを実体配線図で表すこと〔7(1)〕

設問7(1)について、正答率は十分とはいえない。指導に当たっては、乾電池の並び方にとらわれずに、乾電池のつなぎ方を理解する学習活動を工夫する必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容     | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-----------|--------|-------|
| 7 (1) | 乾電池の直列つなぎ | 67.6%  | %     |

(全) H24：3 (3) (県) H28：7 (1) H25：4 (2) ①

▼：磁石が相互に引き合ったり、退け合ったりする様子を比較し、磁石の極の性質について表現すること〔3(2)〕

設問3(2)については、p.28 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-------------|--------|-------|
| 3 (2) | 磁石の極の性質【分析】 | 20.1%  | %     |

(県) R1：8 (1)

- ・実験で体感した手ごたえを言葉で表現すること
- ・同じ現象でも様々な表現があることを確認し、理科としての適切な表現を指導すること

【物質・エネルギー（粒子）】

(県平均正答率：59.5%) (学校正答率： %)

○：物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解すること〔1(2)〕

設問1(2)について、正答率は概ね良好である。今後も、物の重さを手ごたえなどの体感を通して調べたり、自動上皿はかりを用いて数値化したりし、物の形と重さとの関係について考える必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-----------------|--------|-------|
| 1 (2) | 形によって重さが変わらないこと | 85.4%  | %     |

(全) H24：1 (1) (県) H29：1 (2) H26：3 (1) ②

▼：水の変化について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現すること〔5(2)〕

設問5(2)については、p.30 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-----------------|--------|-------|
| 5 (2) | 結果を見通した実験構想【構想】 | 47.5%  | %     |

(全) H30：2 (2) (県) H29：6 (2)

- ・予想や仮説を立てる際、理由や根拠を問う指導を繰り返すこと
- ・自分と考えが異なる他者の予想に対しても結果の見通しをもつこと
- ・問い返しによって既習の内容を確認し、より妥当な考えをつくり出すこと

【生命・地球（生命）】

（県平均正答率：67.8%）（学校正答率： %）

◇：人が体を動かす仕組みを、骨や筋肉の働きと関係付けて表現すること〔2(2)〕

設問2(2)については、正答率は平成26年度の関連する設問と比べると、22.6ポイント上回っており、基準に到達している。

今後も、模型を用いて腕を曲げたり伸ばしたりしたときのゴムの様子と、実際に

に負荷をかけながら腕を曲げたり伸ばしたりするときの筋肉の様子を対比させて、筋肉が「ちぢむ」「ゆるむ」とはどういう状態なのかを確認し、そのときの筋肉の働きを表す科学的な言葉として「ちぢむ」「ゆるむ」を理解する指導を継続していくことが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-------------|--------|-------|
| 2 (2) | 体の動く仕組み【適用】 | 72.9%  | %     |

(全) H30 : 1 (4) (県) H26 : 2 (2) H23 : 1 (3)

【生命・地球（地球）】

（県平均正答率：69.7%）（学校正答率： %）

○：星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、見える位置は変わるが、並び方は変わらないことを理解すること〔8(4)〕

設問8(4)について、正答率は概ね良好である。今後も、1人1台端末のアプリケーションソフトやシミュレーションソフト、動画とともに星座早見を活用し、星の動きの規則性について理解する指導を充実する必要がある。

| 設問番号  | 問題の内容       | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|-------------|--------|-------|
| 8 (4) | 星の位置や並び方の変化 | 89.9%  | %     |

▽：太陽や影の位置の変化と方位の関係を理解すること〔6(1)②③④〕

設問6(1)②③④について、正答率は十分とはいえない。この要因として、太陽が東から南の空の高い所を通過して西へと動くことを理解させる指導が不十分であると考えられる。指導に当たっては、一人一人が方位磁針を操作し、方位の感覚が身に付くように生活との関連を図って指導する必要がある。

| 設問番号     | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|----------|----------|--------|-------|
| 6 (1)②③④ | 太陽の動きと方位 | 63.3%  | %     |

(県) H29 : 2 (4) H28 : 2 (3)

▼：星座早見を正しく使うこと〔8(3)〕

設問8(3)について、正答率は不十分である。

この要因として、星座早見の活用が不十分であると考えられる。指導に当たっては、星座早見は、いつでもどこでも活用できることや、全天を見られること、星の並びが変わらないことなど確認できるよさがあるため、アプリケーションソフト等と併用することが必要である。

| 設問番号  | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|----------|--------|-------|
| 8 (3) | 星座早見の使い方 | 38.2%  | %     |

指導改善のポイント

□手ごたえなどの体感を基にした学習活動を充実すること (→ 事例1)

□学習を通して獲得した知識や生活経験を基に、結果を見通した学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

手ごたえなどの体感を基にした学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野               | 出題のねらい   | 評価の観点    |
|-------|---------------------|--|----------|
| 3 (2) | 物質・エネルギー<br>(エネルギー) | 磁石が相互に引き合ったり、退け合ったりする様子を比較し、磁石の極の性質について表現することができる。 | 思考・判断・表現 |

3 花子さんは、磁石の性質について調べて、次のようにノートにまとめました。あとの問いに答えましょう。

【花子さんのノート】

【実験2】 2つの磁石の極どうしを近づけるとどうなるかを調べる。

結果

| 近づける極 | つく・つかない | 手ごたえ             |
|-------|---------|------------------|
| 同じ極   | つかない    | 間にボールがはさまったような感じ |
| ちがう極  | つく      | 引きよせられるような感じ     |

(2) 【実験2】の【結果】から、磁石の極の性質についてどのようなことがいえますか。

| 正答例  | 誤答例                      |              |
|--|--------------------------|--------------|
| ちがう極どうし (N極とS極) は引き合い、同じ極どうし (N極とN極, S極とS極) はしりぞけ合う。 | ちがう極どうしはつくが、同じ極どうしはつかない。 |              |
| 正答率 (準正答率)<br>20.1% (0.4%)                           | 誤答率<br>77.4%             | 無解答率<br>2.5% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「磁石が相互に引き合ったり、退け合ったりする様子を比較し、磁石の極の性質について表現することができる」であり、正答率は20.1%と不十分である。誤答の多くは、磁石の極の性質について、実験2の「つく・つかない」の結果のみに着目して記述している。この要因として、「引き合う・退け合う」という言葉の意味が磁石の極の性質を表していることと、実験の結果が結び付いていないことが考えられる。2つの磁石の極を近づける実験では、「つく・つかない」だけでなく、手ごたえなどの体感を基にした学習活動を充実することが大切である。また、手ごたえなどの体感を自由に表現させ、「引き合う・退け合う」という言葉の意味を理解させることが必要である。

指導に当たっては、手ごたえなどの体感を基に表現した様々な言葉を黒板に記録し、言葉と現象を関係付けていくことが大切である。そして、十分に表現させた後に、それらの言葉が同じ現象を表すことを確認し、最終的に科学的な言葉を用いた適切な表現方法が身に付くよう指導する必要がある。

③ 改善事例 第3学年「磁石の性質」

1 指導のねらい

手ごたえなどの体感を通して、磁石が相互に「引き合う」ことや「退け合う」ことの言葉の意味を理解することができる。

2 具体例

**課題** <2つの磁石の極どうしを近づけるとどうなるのだろうか>

|      | ちがうきよく      | 同じきよく         |
|------|-------------|---------------|
| 近づけた | ついた         | つかなかった        |
| けっか  | ↓<br>「引き合う」 | ↓<br>「しりぞけ合う」 |

2つの磁石の極を近づけるとどうなったかな。

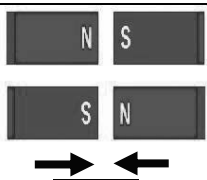
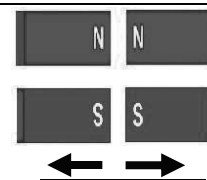
違う極はくっついたよ。

同じ極はくっつかなかったよ。

そうだね。理科ではくっつくことを「引き合う」、くっつかないことを「しりぞけ合う」というんだよ。  
※これでは科学的な言葉を理解したことにはなりません。

**改善例**

**【ポイント1】** 児童に実験での手ごたえなどの体感を言葉で表現させる。

|             | ちがうきよく   | 同じきよく  |
|-------------|--|--|
| 近づけた<br>けっか | <br>ついた<br>↓<br>手ごたえ                         | <br>つかなかった<br>↓<br>手ごたえ                                |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひっぱられる感じ</li> <li>・ひっこうとする感じ</li> <li>・よっていき感じ</li> <li>・はなれていても引きよせられている感じ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・間にボールがはさまっているみたい</li> <li>・いやがっている感じ</li> <li>・逃げていき感じ</li> <li>・つけても、手の力をゆるめたらはなれていく</li> </ul> |
|             | <b>【ポイント2】</b> 同じ現象でも様々な手ごたえの表現があることを確認する。   |  |
|             | <b>【ポイント3】</b> 科学的な言葉を用いた適切な表現を伝える。  |  |
|             | 「引き合う」   | 「しりぞけ合う」   |

2つの磁石の極を近づけるとどうなったかな。

違う極はくっついたよ。

くっつくときどんな感じがしたのかな？ 鉄と鉄もくっついたよね。

僕は、ひっぱられる感じがしたよ。

私は、ひっこうとする感じがしたよ。

同じ極はどうだったかな？

くっつかなかった。

くっつかないときどんな感じがしたの？

いやがっている感じがしたよ。

私は、逃げていき感じがしたよ。

違う極（同じ極）どうしを近づけたときの感じ方には、いろいろ表現がありましたね。どれも同じ現象を表しているのかな？

僕は〇〇のように感じたけれど、△△も同じ現象のことを表しているよ。

※手ごたえなどの体感を明確にするために、磁力の強い磁石や糸でつるした磁石、時計皿にのせた磁石を使うなどの工夫が考えられる。

《事例1と関連する手ごたえなどの体感を重視した学習内容》  
小3「風とゴムの力の働き」、 「物と重さ」 小4「空気と水の性質」

これから、磁石の極の性質は、「引き合う」や「しりぞけ合う」と表そう。

イ 事例2

学習を通して獲得した知識や生活経験を基に、結果を見通した学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野            | 出題のねらい   | 評価の観点    |
|-------|------------------|--|----------|
| 5 (2) | 物質・エネルギー<br>(粒子) | 水の変化について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現することができる。 | 思考・判断・表現 |

⑤ 花子さんは、やかんの水がふっとうしているときに、湯気やあわが出ているように興味をもち、調べることにしました。次の問いに答えましょう。

(1) 図1のように、水を熱してしばらくすると、湯気が見られました。湯気は水のすがたのうち、固体、液体、気体のどれにあたりますか。1つ選んで書きましょう。



花子さんは、水を熱したときに出てきたあわの正体について、次のように予想しました。

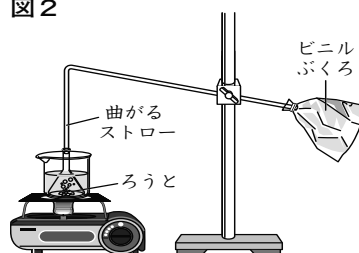


花子さん

水がふっとうしているときに出てきたあわは、空気だと思うよ。

予想をたしかめるため、図2のように、ふっとうしているときに出てくるあわをふくろに集め、ふくろのようすを調べました。

図2



(2) 花子さんの予想が正しければ、実験の結果はどのようになると考えられますか。次のア～エから1つ選び、その記号を答えましょう。

- ア ビニルぶくろはふくらむ。ビニルぶくろに水はたまらない。
- イ ビニルぶくろはふくらむ。ビニルぶくろに水がたまる。
- ウ ビニルぶくろはふくらんだ後しぼむ。ビニルぶくろに水はたまらない。
- エ ビニルぶくろはふくらんだ後しぼむ。ビニルぶくろに水がたまる。

| 正答例   | 誤答例     |      |
|-------|---------|------|
| ア     | イ, ウ, エ |      |
| 正答率   | 誤答率     | 無解答率 |
| 47.5% | 52.5%   | 0.0% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「水の変化について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現することができる」であり、正答率は47.5%と不十分である。

予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しをもって、実験を構想できるようにするためには、根拠のある予想や仮説を立て、その上で構想した実験方法が検証可能かどうかを検討し、結果までの見通しをもつことが必要である。

指導に当たっては、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立てることが大切である。また、自分の考えと異なる他者の予想に対しても結果の見通しをもつことができるよう児童同士で検討する学習活動を設定することが必要である。さらに、実験方法と結果の見通しについて話し合う場面で、既習の内容が正しく身に付いていないことも考えられるため、問い返し等によって既習の内容を再確認することも大切である。



③ 改善事例 第6学年「水溶液の性質」

1 指導のねらい

予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現することができる。

指導のねらいによって、本時の展開や重点は変わります。教師は本時でどのような力を付けさせたいのか、指導の意図を明確にして指導計画を立てることが大切です。



2 具体例

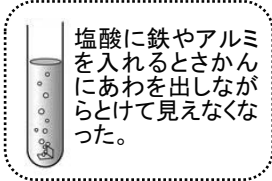
【事例1 塩酸の中でとけた金属がどうなったのかを話し合う場面】

◇学習を通して獲得した知識や生活経験を基に予想をする。

予想

金属はなくなったと思う。

塩酸の中にあると思う。



どうしてそう思うのですか？

あわが出ていたので空気中へ出ていったからだよ。

だって、食塩のときは水の中にあつたよ。



みんな同じ考えですか？

僕もなくなったと思うけど・・・。  
□□さんとちょっとちがって、塩酸なので空気中へ出ていったのではなく、とけてなくなったと思う。

〇〇さんと同じで塩酸の中にあると思うけれど、水ではなく塩酸なので別のもの変わったと思う。

同じ予想でも、子供の考えには違いがあります。問い返しによって、考えを引き出しましょう。



【ポイント1】 予想や仮説を立てる際、理由や根拠を問う。

※繰り返し指導することで、既習や生活経験と結び付けた予想ができるようになります。

- ・金属をとかしたとき、あわが出ていた。炭酸水の時も、とけていた二酸化炭素が空気中へ出ていったから。
- ・食塩を水にとかしたとき見えなくなったけれど、水を蒸発させると食塩が出てきたから金属も同じだと思う。

【事例2 塩酸から取り出した物質は元の金属なのか、確かめる方法を話し合う場面】

◇実験方法と結果の見通しについて話し合う。

私は、食塩のときとちがってあわを出しながらとけていたので別のものになっていると思うよ。

ぼくは、元の金属と同じだと思うよ。だって食塩のときも同じだったから。



元の金属と同じなら、磁石で調べれば確認できるよね。磁石に引きつけられたら元の鉄やアルミといえるね。

【ポイント2】 自分と考えが異なる他者の予想に対しても結果の見通しをもたせる。



ぼくも磁石で調べればいいと思うんだけど、磁石に引きつけられたら鉄だと分かるけれど、アルミかどうか分からないんじゃないかな？



磁石に引きつけられるものは何でしたか？  
3年生の学習内容を思い出してみよう！



磁石に引きつけられるのは、鉄だけだったよね。

【ポイント3】 問い返しによって、既習の内容を再確認する。

※既習の内容や生活経験を基に話し合いをしても、既習の内容が正しく身に付いているとは限りません。子供たちの状況を把握しましょう。

あっ？ そうか。鉄だけだったね。





中学校 第3学年  
「社会」「理科」「英語」

## 中学校第3学年 社会

| 県平均正答率 | 学校正答率 |
|--------|-------|
| 57.0%  | %     |

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は57.0%で、元年度より1.6ポイント下がり、到達状況は不十分である。地理的事象に関する基礎的な知識の理解については概ね良好であるが、地理的、歴史的分野ともに、複数の資料から読み取った情報を関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして適切に表現することについては、依然として課題が見られ、指導の改善が必要である。

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

#### 【地理的分野】

(県平均正答率：62.7%) (学校正答率： %)

#### ○：資料から読み取ったことを基に課題（学習課題）を設定すること〔4(3)〕

設問4(3)の正答率については、概ね良好である。今後も、複数の資料から読み取った情報を比較・関連付けて、気付いたことや疑問に思ったことなどを基に、学習課題を設定する学習活動を工夫することが大切である。

| 設問番号  | 問題の内容                  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|------------------------|--------|-------|
| 4 (3) | 北海道の気候と産業の関連<br>(学習課題) | 81.8%  | %     |

(県) R1：4(4)② H30：4(4)

#### ◇：日本の領土や日本周辺の海流など、海洋に囲まれた日本の特色について理解すること〔4(1)(2)〕

設問4(1)(2)の正答率については、基準に到達している。しかし、日本周辺の海流に関する指導については、不十分であったと考えられる。指導に当たっては、意図的・計画的に地図帳や地球儀、白地図を活用する学習活動を工夫することが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容              | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------|--------|-------|
| 4    | (1) 日本の領土（択捉島）     | 93.1%  | %     |
|      | (2) 日本の周辺の海流（千島海流） | 65.7%  | %     |

(県) H30：4(1) H29：4(1)

#### ▼：複数の情報を的確に読み取り、それらを関連付けて考察したことを適切に表現すること

〔1(5)②Y, 4(5)③〕

設問4(5)③の正答率については、不十分である。歴史的景観を守るために無電柱化を進めているなど、地理的事象と関連した歴史的背景について考察する学習活動を工夫する必要がある。また、設問1(5)②Yについては、p.36参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号    | 問題の内容            | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|---------|------------------|--------|-------|
| 1 (5)②Y | オーストラリアの貿易の変化の要因 | 14.8%  | %     |
| 4 (5)③  | 地理的事象（景観の保全）     | 40.9%  | %     |

- ・これまでに習得した知識を活用して、資料から読み取った情報を基に、地理的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察したことを、適切に表現する学習活動を工夫すること

#### ▼：地形図を正確に読み取ること〔4(4)〕

設問4(4)の正答率については、不十分である。指導に当たっては、地形図を読み取る学習活動を単元に位置付け、等高線や、方位や距離、地図記号を正確に読み取ることができるように学習活動を工夫することが必要である。

| 設問番号  | 問題の内容    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-------|----------|--------|-------|
| 4 (4) | 地形図の読み取り | 24.0%  | %     |

## 【歴史的分野】

(県平均正答率：52.2%) (学校正答率： %)

◇：基礎・基本となる歴史的人物や歴史的事象について理解すること〔2(4)①②, 5(2)〕

設問2(4)①②, 5(2)の正答率については、いずれも基準に到達している。今後も、単元を通した問題解決的な学習の充実を図り、歴史的事象を適切に表現する学習活動を単元に位置付けることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率       | 学校正答率 |   |
|------|-------|--------------|-------|---|
| 2    | (4)①  | 歴史上の人物(聖武天皇) | 84.4% | % |
|      | (4)②  | 歴史上の事象(天平文化) | 72.7% | % |
| 5    | (2)   | 歴史上の人物(松尾芭蕉) | 78.1% | % |

▼：東アジアの文明の影響を受けながら、日本で国家が形成されていったことについて理解すること〔2(1)①②〕

設問2(1)①②の正答率については、不十分である。中国をはじめとする東アジアとの関わりの中で、日本の歴史を捉える指導が不十分であったと考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率     | 学校正答率 |   |
|------|-------|------------|-------|---|
| 2    | (1)①  | 歴史上の事象(漢)  | 17.0% | % |
|      | (1)②  | 歴史上の事象(朝貢) | 21.3% | % |

(県) H29：2(5) H28：2(2) H26：2(3)

・古代における、我が国と中国をはじめとする東アジアの国々との交流や、相互の歴史や文化が深く関わっていることについて調べ、まとめる学習活動を工夫すること

▼：資料や既習の知識を基に、多面的・多角的に考察したことを適切に表現すること

〔3(2)(4)②, 5(3)②〕

設問3(2)(4)②の正答率については、不十分である。題意に応じて適切に表現できていない誤答が見られたことから、歴史的事象の意義を捉える学習活動を工夫する必要がある。また、設問5(3)②は、p.38参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容 | 県平均正答率          | 学校正答率 |   |
|------|-------|-----------------|-------|---|
| 3    | (2)   | 歴史上の事象(バテレン追放令) | 12.8% | % |
|      | (4)②  | 鉄砲伝来の影響         | 44.6% | % |
| 5    | (3)②  | 江戸時代の産業(工場制手工業) | 44.0% | % |

(県) H29：事例2

(県) H29：5(4)②

・資料から読み取った情報を、歴史的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察し、それらの意義について効果的にまとめたり、説明したりする学習活動を工夫すること

## 指導改善のポイント

□地理的事象を、地理的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を工夫すること (→ 事例1)

□複数の資料から読み取った情報を、歴史的な見方・考え方を働かせて考察し、効果的にまとめたり、説明したりする学習活動を工夫すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1・3

ア 事例1

地理的事象を、地理的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号    | 領域・分野 | 出題のねらい                                   | 評価の観点                     |
|---------|-------|--|---------------------------|
| 1 (5)②Y | 地理的分野 | 資料を基に、オーストラリアの貿易の変化の理由について考察し表現することができる。 | ・社会的な思考・判断・表現<br>・資料活用の技能 |

1 (5)

② 下の                      は、オーストラリアの貿易における変化の理由について、資料1と資料2をもとに考えられることをまとめたものである。下の                      の中の                      X                      と                      Y                      にあてはまる言葉を書きなさい。

【資料1】 オーストラリアの輸出品

【資料2】 オーストラリアの貿易相手国

【資料1からわかること】  
オーストラリアの主な輸出品は、                     X                      であったが、鉄鉱石や石炭などの工業の原材料に変化している。

【資料2からわかること】  
オーストラリアの貿易相手国が、欧米諸国から、アジア州の国々へと変化している。

↓ ↓

【資料1と資料2をもとに考えられること】  
かつてイギリスの植民地だったオーストラリアは、イギリスなど欧米諸国に                      X                      を中心に輸出していたが、近年では、アジア州の国々に鉄鉱石や石炭などの工業の原材料を中心に輸出するようになってきた。その理由として、                     Y                      ことで、鉄鉱石や石炭などの需要が増加したことが考えられる。

| 正答例   | 誤答例   |                          |
|---|---|--------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア州の国々の工業が発達した</li> <li>・アジア州で、第二次産業が発達した</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業化（近代化）が進んだ</li> <li>・貿易相手がイギリスから中国（アジア）に変化した</li> <li>・オーストラリアの工業化が進んだ</li> </ul> |                          |
| <p>正答率（準正答率）</p> <p>14.8% (7.6%)</p>  | <p>誤答率</p> <p>71.5%</p>   | <p>無解答率</p> <p>13.7%</p> |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「資料を基に、オーストラリアの貿易の変化の理由について考察し表現することができる」であり、正答率は14.8%と不十分である。誤答については、どこの国のことかが不明な解答やアジアの工業化に触れていない解答、オーストラリアについての解答など、その変化がなぜ起きたのかについて考察できていないものが多く見られた。この要因として、習得した知識と資料から読み取った情報を関連付けて考察し、適切に表現する学習活動が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、用語・語句などを含めた個別の事実に関する知識を習得し、その知識を基に、複数の資料から読み取った情報を関連付けて考察し、適切に表現する学習活動を工夫することが必要である。その際、地理的な見方・考え方を働かせ、変化の背景などについて多面的・多角的に考察させることが必要である。

③ 改善事例 第2学年「日本の地域的特色」

1 指導のねらい

地理的事象を、地理的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。

2 具体例



若手先生

新学習指導要領解説、第3章の2「内容の取扱いについての配慮事項」において、(1)「社会的な見方・考え方を働かせたことをより一層重視する観点に立って」とありますが、具体的にはどのようなことなのでしょう。

例えば、地理的分野においては、見方として①位置や分布、②場所、③人間と自然環境との相互依存関係、④空間的相互依存作用、⑤地域の5つの視点を挙げています。また考え方としては、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすることを挙げています。



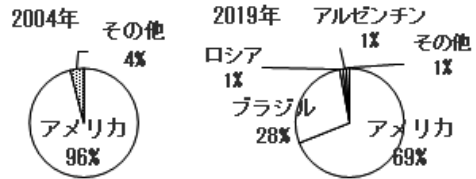
ベテラン先生



ベテラン先生

例えば、食料自給率の学習において、日本が輸入に頼っているとうもろこしに関する右の2つの資料から、あなたなら、どのような学習課題を設定しますか。

日本のとうもろこしの輸入総額に占める輸入相手国の割合



若手先生

生徒は、2004年のグラフから、日本のとうもろこしの輸入総額の95%以上をアメリカが占めていたこと、2019年では、アメリカの割合が減少し、ブラジルの割合が増加していることを読み取るといいます。そこで学習課題は、<日本のとうもろこしの輸入において、アメリカへの依存度が減少したのは、なぜだろうか>というのはどうでしょうか。



ベテラン先生

いいですね。では、学習の展開において、地理的な見方・考え方を働かせるためにどのように指導しますか。

資料2  
とうもろこしの国別生産量を示したグラフ



若手先生

まず、資料2と資料3を提示し、読み取った情報を関連付けさせます。資料2では、①位置や分布の地理的な見方を働かせ、とうもろこしの生産国について捉えさせます。資料3では、⑤地域の見方を働かせ、日本がとうもろこしを輸入する理由について捉えさせます。とうもろこしの生産量の上位国の様子と日本の輸入理由を関連付け、日本は、家畜の飼料のために、生産量の多いブラジルからの輸入が増えていることを捉えさせたいと思います。

資料3  
日本におけるとうもろこしの利用の内訳を示したグラフ



若手先生

さらに、既習内容を基に変化の理由を考えさせます。自然災害や人口増加の影響、バイオエタノールへの利用など、位置や分布、地域、③人間と自然環境との相互依存関係などの見方を働かせ、多面的・多角的に考察できるようにしたいです。例えば、追加資料として資料4を提示し、実際に起こった自然災害の様子から、生産国の状況と日本への影響を捉え、学習課題についてまとめさせます。

資料4  
アメリカの干ばつの様子を示した写真



ベテラン先生

なるほど、様々な地理的な見方を働かせ、自然や人口、エネルギーなどの面から、さらに、日本や生産国の立場から考えることで、多面的・多角的に考察させる授業を工夫するんですね。では、まとめはどのような内容を考えていますか。



若手先生

2004年の輸入状況ではどんな問題が発生するのか、そして、2019年のように輸入相手国が変化した背景は何かを明確にして表現するように指導します。まとめは、「アメリカからの輸入に依存すると、自然災害などで不作になった場合、輸入量が減少し日本の畜産業に影響があるので、生産量の多い他の国からの輸入を増やし、安定してとうもろこしを確保する必要があるため」と表現させたいです。そして、「これからも安定してとうもろこしを確保できるだろうか」と問い返し、将来を見通す観点も意識させたいです。

イ 事例2

複数の資料から読み取った情報を、歴史的な見方・考え方を働かせて考察し、効果的にまとめたり、説明したりする学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号   | 領域・分野 | 出題のねらい                                 | 評価の観点                             |
|--------|-------|--|-----------------------------------|
| 5 (3)② | 歴史的分野 | 資料を基に、江戸時代の手工業や商業の発達について考察し表現することができる。 | ・社会的な思考・判断・表現<br>・社会的事象についての知識・理解 |

5 (3) Cのカードについて、次の①、②の問いに答えなさい。

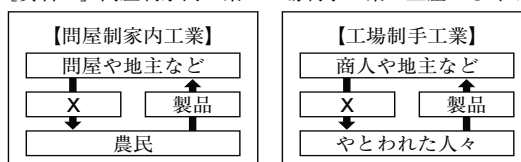
① 資料1は、問屋制家内工業と工場制手工業の生産のしくみを模式図に表したものである。

Xにあてはまる語句を、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア 賃金                      イ 土地
- ウ 年貢                      エ 税金

② 工場制手工業は、その後の日本の近代工業の発展の基礎となったと考えられる。その理由を、資料1と資料2をもとに、働く場所と働き方の点から書きなさい。

【資料1】 問屋制家内工業と工場制手工業の生産のしくみ



【資料2】 工場制手工業での生産の様子



| 正答例  | 誤答例   |       |
|--|---|-------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々が工場に集まり、分業体制で生産しているから。</li> <li>・人々が作業所に集まり、役割分担をして働いているから。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場所が与えられて、それぞれが役割を分担していた。</li> <li>・働く場所によって役割が違い、分担して作業していた。</li> </ul> |       |
| 正答率（準正答率）  | 誤答率   | 無解答率  |
| 44.0% (19.0%)  | 40.8%   | 15.2% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「資料を基に、江戸時代の手工業や商業の発達について考察し表現することができる」であり、正答率は44.0%と不十分である。江戸時代後期に日本で広がった工場制手工業について、資料1と資料2から読み取った情報を基に考察し、大商人や地主が農村に工場を建設し、人を雇って分業体制で製品を作るといった特徴を表現することをねらったものである。誤答としては、資料1と資料2を関連付けて答えるのではなく、資料2の工場制手工業で、役割分担や分業等の働き方が進んだことのみが表現が多く見られた。この要因として、「問屋制家内工業」から「工場制手工業」へと変化した歴史的意義について十分理解できていないために、この2つの歴史的な事象を比較した資料1を読み取れず、働く場所が工場に変化したことを適切に表現できなかったと考えられる。

指導に当たっては、複数の資料から読み取った様々な情報を、推移や比較、関連付けなどの歴史的な見方・考え方を働かせて考察し、効果的に図や表にまとめさせたり、説明させたりすることで、歴史的意義を理解させることが必要である。



③ 改善事例 第2学年「近代的な国際関係」

1 指導のねらい

複数の資料から読み取った情報を、歴史的な見方・考え方を働かせて考察し、効果的にまとめたり、説明したりする力を育成する。

2 具体例 **学習課題** <明治政府は欧米諸国や中国、朝鮮と、どのような外交関係を結ぼうとしたのだろうか>

① 複数の資料の読み取りから歴史的な事象を正確に捉える活動

ポイント1：資料中に線を引かせ、相違点や共通点を捉えさせる。



欧米に関する資料1については、当時の日本の様子と比較しましょう。アジア諸国に関する資料2と資料3については、それぞれを比較し、相違点や共通点を見つけましょう。

【資料1】岩倉使節団が見たヨーロッパ

フランス革命の影響で、ヨーロッパでは民衆が自由を主張し、立憲政治が始まった。…変革の真価は工業生産にあり、ヨーロッパの国々を歴訪してきたが、どこの都市でも工業生産を競い、貿易に力をつけていて、屋は機械のごうごうとした音が鳴り、夜は煙突の火が天をこがしていた。(部分要約)

(「特命全権大使 米欧回覧実記」)

【資料2】日清修好条規 (部分要約)

第1条 この後大日本国と大清国は、友好関係を強め、たがいの国土をおかす、永久に安全なものとする。

第8条 両国の開港地には、それぞれの役人を置き、自国の商人の取り締まりを行う。財産や産業について訴えがあった事件は、その役人が裁判を行い、自国の法律で裁く。

【資料3】日朝修好条規 (部分要約)

第1条 朝鮮国は自主の国であり、日本国と平等の権利を持っている。

第10条 日本国の人民が、朝鮮国の開港地に在留中に罪を犯し、朝鮮国の人民と交渉が必要な事件は、全て日本国の領事が裁判を行う。

第11条 両国は、別に通商に関する決まりを定め、両国の商人の便を図る。これから6か月以内に両国別に委員を任命し、話し合う。

資料1は、当時のヨーロッパの繁栄の様子だね。日本とは近代化のレベルが違うことが分かるよ。



資料2と資料3から、日本は中国や朝鮮と条約を結んでいるのが分かるね。それぞれの内容が少し違うね。なぜ、違いがあるのかな。

② 追加資料を用いて、既習内容を生かしながら、歴史的な事象の意義について話し合う活動

ポイント2：推移や比較、関連付けなどの歴史的な見方・考え方を示して、考えさせる。

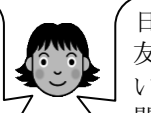


以前学習した「日米修好通商条約」と何か関係がありそうですね。比較したり、関連付けたりして考えてみましょう。



欧米とは国力が大きく違うから、不平等条約の改正は失敗したと思う。日本は、もっと発展する必要があるんじゃないかな。

日米修好通商条約と日朝修好条規はとても似ているわ。第10条は朝鮮に領事裁判権を認めさせたことだし、江華島事件で開国したことも日本と状況が似ているね。



日清修好条規からは、両国が友好的な関係を結ぼうとしている感じがするね。今までの関係と違って、対等な立場での条約を結んだんだね。

【追加資料①】

<日米修好通商条約>

【追加資料②】

<江華島事件の概要を  
を表した資料>

③ ①②の活動を通して、必要な情報を整理し、図でまとめ、歴史的意義を説明する活動

ポイント3：どんな関係性があるかなどを図で表現し、歴史的意義を捉えさせる。

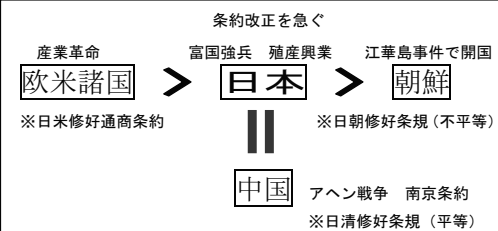


当時の外交関係について、図で表しましょう。完成したら、ペアで説明し合ひましょう。その後、本時のまとめを書きましょう。



私は、それぞれの条約の内容を基に、力関係について不等号を使って表してみました。また、日本は欧米諸国に近づくために、富国強兵や殖産興業に力を入れていた様子も書き加えました。このような外交関係を結んだのは、欧米に認めてもらい、不平等条約改正を実現するために、アジアにおける地位の確立を目指した(歴史的意義)からだと思います。

Aさんのノート



【まとめ】明治政府は、アジアにおける地位の確立を目指した外交関係を結んだ。それは、欧米に認めてもらい、不平等条約の改正を実現するためである。

中学校第3学年 理科

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 55.7%  | %     |

(1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は55.7%で、元年度より1.0ポイント上回ったが、到達状況は不十分である。領域別では、物理的領域の平均正答率が49.8%と依然として不十分である。導線に流れる電流がつくる磁界の向きを考える問題や柱状図と地図から地層の傾きを考える問題で課題が見られ、指導の改善が必要である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【第1分野 物理的領域】 (県平均正答率：49.8%) (学校正答率： %)

◇：光が鏡で反射し、目に届くまでの道筋を作図すること〔1(2)〕

設問1(2)については、正答率が74.6%で基準に到達している。

| 設問番号 | 問題の内容      | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------|--------|-------|
| 1    | (2) 光の反射作図 | 74.6%  | %     |

今後も、日常生活の様々な場面において光が鏡で反射し、目に届くまでの光の道筋を考える学習活動の充実が求められる。

▼：輪にした導線に流れる電流がつくる磁界の向き、コイルに流れる電流がつくる磁界の向きを理解すること〔7(2)〕

設問7(2)については、p.42参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させる必要がある。

| 設問番号 | 問題の内容                    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------------|--------|-------|
| 7    | (2)A 導線に流れる電流がつくる磁界の向き   | 35.2%  | %     |
|      | (2)BC コイルに流れる電流がつくる磁界の向き | 17.1%  | %     |

(県) H26：7(1)(2)

- ・実験結果を分析して解釈し、1本の導線に流れる電流がつくる磁界の向きについて理解すること
- ・見いだした規則性を活用する活動を充実すること

【第1分野 化学的領域】 (県平均正答率：53.1%) (学校正答率： %)

▽：銅の酸化における化学反応式を理解すること〔4(1)〕

設問4(1)については、平成28年度の関連する設問と比べると、20.7ポイント上回ったが、正答率は十分とはいえない。

| 設問番号 | 問題の内容             | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|-------------------|--------|-------|
| 4    | (1) 銅の酸化における化学反応式 | 65.9%  | %     |

(県) H28：3(3) H22：9(4)

今後は、化学変化をモデルで表現する活動をもとにして化学反応式を考える学習活動を充実させる必要がある。

▽：蒸留実験の原理と海水から水を取り出す装置を対応させること〔6(4)〕

設問6(4)については、平成20年度の関連する設問と比べると、36.5ポイント上回っているが、正答率が65.4%で十分とはいえない。

| 設問番号 | 問題の内容                    | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------------------|--------|-------|
| 6    | (4) 蒸留実験の原理と実験方法との対応【適用】 | 65.4%  | %     |

(県) H20：8(2)

今後は、実験操作の意味を解釈する活動や他の場面で適用させて考える活動を充実させる必要がある。

**【第2分野 生物学的領域】**

(県平均正答率：60.2%) (学校正答率： %)

**◇：呼吸運動の仕組みを模型と関連付けて、理解すること〔2(1)〕**

設問2(1)については、正答率が72.6%で基準に到達している。

| 設問番号 | 問題の内容         | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------|--------|-------|
| 2    | (1) 肺のモデル【構想】 | 72.6%  | %     |

今後も、模型の動きと実際の体の器官

の動きとを関連付けて指導することが大切である。また、その際、体積や圧力の変化を正しく表現するよう指導することも大切である。

**▽：花のつくりを理解すること〔8(1)〕**

設問8(1)については、正答率が67.1%で十分とはいえない。

| 設問番号 | 問題の内容          | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------|--------|-------|
| 8    | (1) 花のつくりによる分類 | 67.1%  | %     |

指導に当たっては、いくつかの植物の

観察を行い、その観察記録などに基づいて、植物のいろいろな共通点や相違点がある

ことを見だし、基本的なつくりを理解することが大切である。また、その共通点や相違点に基づいて植物を分類できることを見いだす活動も必要である。

(全) H24：1(4) (県) H26：8(2)③

**【第2分野 地学的領域】**

(県平均正答率：60.7%) (学校正答率： %)

**○：夏に発達する気団を理解すること〔5(2)〕**

設問5(2)の正答率については、概ね良好である。

| 設問番号 | 問題の内容        | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--------------|--------|-------|
| 5    | (2) 夏に発達する気団 | 88.3%  | %     |

今後も、日本付近で発達する気団が日本の気象現象に与える影響を、気団の性質などと関連付けて総合的に考える学習活動を充実することが必要である。

(全) H30：3(2)

**▼：柱状図と地図を関係付け、地層の傾きを考えること〔3(2)〕**

設問3(2)については、p.44 参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容            | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|------------------|--------|-------|
| 3    | (2) 地層の傾き【分析・解釈】 | 13.2%  | %     |

(全) H24：3(2) (県) H28：5(4)

- ・身近な地形と等高線や断面図を関連させ、等高線から山の形を立体的に捉える活動を取り入れること
- ・等高線や柱状図から地層のつながりや広がりを考える学習活動を充実すること

**指導改善のポイント**

□見いだした規則性についての知識・技能を活用する学習活動を充実すること (→ 事例1)

□身近な地形や地層と資料を関連付ける学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

ア 事例1

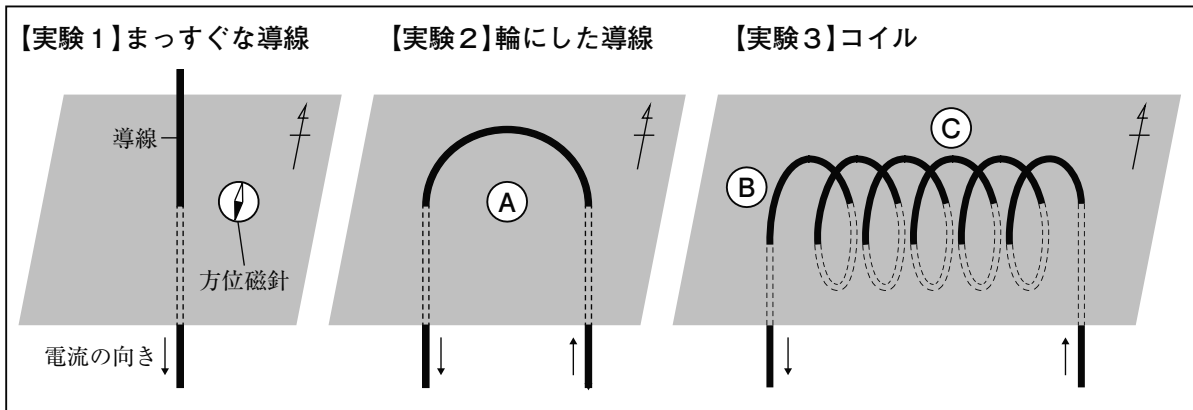
見いだした規則性についての知識・技能を活用する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

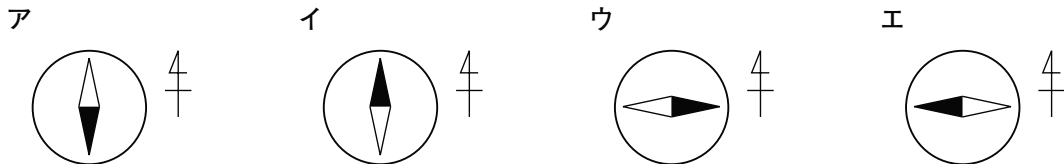
| 設問番号  | 領域・分野         | 出題のねらい  | 評価の観点          |
|-------|---------------|---|----------------|
| 7 (2) | 第1分野<br>物理的領域 | 輪にした導線に流れる電流がつくる磁界の向きを理解している。コイルに流れる電流がつくる磁界の向きを理解している。 | 自然事象についての知識・理解 |

7 太郎さんは、導線に流れる電流がつくる磁界について調べました。あとの問いに答えなさい。

太郎さんの実験



(2) 【実験2】のA、【実験3】のB、C上に方位磁針を置き、矢印の方向に電流を流したとき、方位磁針のN極が指す向きを、次のア～エからそれぞれ1つずつ選びなさい。



| 正答例      | 誤答例     |      |
|----------|---------|------|
| 【実験2】A ア | イ, エ, ウ |      |
| 正答率      | 誤答率     | 無解答率 |
| 35.2%    | 64.2%   | 0.6% |

| 正答例          | 誤答例    |        |
|--------------|--------|--------|
| 【実験3】B ウ C エ | B ア, エ | C ウ, イ |
| 正答率          | 誤答率    | 無解答率   |
| 17.1%        | 82.5%  | 0.4%   |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「輪にした導線に流れる電流がつくる磁界の向きを理解している。コイルに流れる電流がつくる磁界の向きを理解している」であり、正答率は35.2%及び17.1%と不十分である。誤答については、得られた実験結果を基に考えることなく、解答している内容が多く見られた。この要因として、実験結果を分析して解釈し、見いだした規則性を基に思考させる指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、1本の導線がつくる磁界を調べる実験結果から見いだした規則性を基に、コイルのまわりにできる磁界を導き出せるような活動を充実することが大切である。

③ 改善事例 第2学年「電流と磁界」

1 指導のねらい

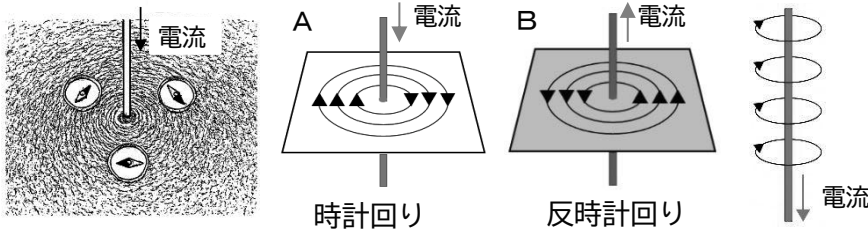
実験結果から、電流による磁界の規則性を見だし、見いだした規則性を基に、輪にした導線やコイルに流れる電流がつくる磁界のようすについて適切に表現する力を育成する。

2 具体例

**課題** <導線に流れる電流のまわりにできる磁界は、どのようになっているのだろうか>

(1) まっすぐな導線に流れる電流のまわりにできる磁界のようすを実験で調べ、規則性を見いだす。

**【ポイント1】まっすぐな1本の導線がつくる磁界の規則性を見いだす。**



- ・導線を中心とした同心円状の磁界ができる。
- ・電流の向きを逆にすると、磁界の向きも逆になる。
- ・導線に近いほど、磁界の強さは強くなる。

(2) 輪にした導線に流れる電流のまわりにできる磁界のようすについて、実験結果を基に予想し、実験を行い、結果を確認する。

**【ポイント2】見いだした規則性を用いて、輪にした1本の導線のまわりにできる磁界のようすを考える。**

**(1)のA、Bを当てはめると**

左側の導線は電流が下向きになるので、Aと同じ同心円状の磁界ができるね。右側の導線はBと同じ磁界ができるね。

輪にした導線の内側では、磁界の向きが同じになっているね。

(3) コイルを形づくっている1本の導線に注目して磁界の向きを考え、コイルに流れる電流のまわりにできる磁界のようすについて、実験結果を基に予想し、交流する。

**【ポイント3】コイルの特徴を捉え、図1と図2を関係付け、見いだした規則性を基に考える。**

**図1** **コイルの特徴**

- ・コイルとは1本の導線が同じ方向で巻かれたもの
- ・電流が一方向に回転するように流れる

**図2**

図1のコイルを図2のように、広げて考えてみよう。

導線の①～③の所は、上向きに電流が流れるのでBと同じ磁界の向きになるね。④～⑥は下向きに電流が流れるのでAと同じ磁界の向きになるね。

コイルって、(2)のように輪にした導線が並んでいることと同じだね。

コイルの内側、外側はそれぞれ同じ向きの磁界が発生しているね。棒磁石みたい。

※コイルは輪になっている導線が並び、コイルの内側は、1本の導線がつくる磁界が重なることで磁界が強められていることや、コイルの外側は棒磁石と同じような磁界ができることなどに気付くように指導する。

イ 事例2

身近な地形や地層と資料を関連付ける学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号  | 領域・分野         | 出題のねらい                       | 評価の観点     |
|-------|---------------|------------------------------|-----------|
| 3 (2) | 第2分野<br>地学的領域 | 柱状図と地図を関係付け、地層の傾きを考えることができる。 | 科学的な思考・表現 |

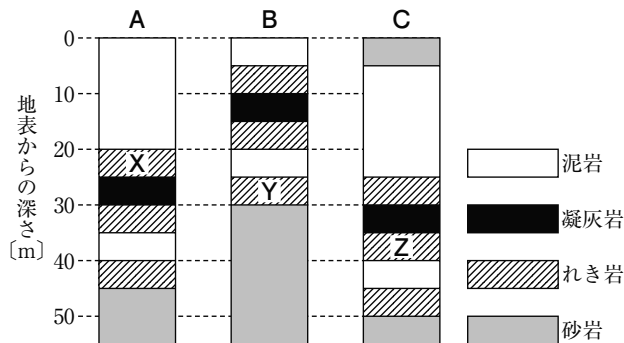
3 花子さんは、地域の地層について調べ、レポートにまとめました。あとの問いに答えなさい。

花子さんのレポート

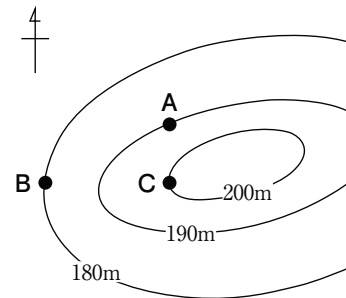
【調査方法】

- ① ボーリング調査が行われたA, B, Cの3地点の試料を調べる。
- ② ボーリング調査の試料をもとに柱状図を作成する。
- ③ A, B, Cの3地点の地図上の位置と標高を調べる。
- ④ 資料館でこの地域の地層の調査結果を調べる。

【柱状図】



【地図】



【資料館での調査結果】

- ・この地層の砂岩の層にシジミの化石がふくまれていた。
- ・この地層は、平行に重なっており、しゅう曲や断層がない。

(2) この地域の地層が傾いて低くなっている方向を、次のア～エから1つ選びなさい。

ア 東                  イ 西                  ウ 南                  エ 北

| 正答例   | 誤答例     |      |
|-------|---------|------|
| エ     | イ, ア, ウ |      |
| 正答率   | 誤答率     | 無解答率 |
| 13.2% | 86.2%   | 0.6% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「柱状図と地図を関係付け、地層の傾きを考えることができる」である。誤答としてイを選んでいる生徒が多い。この要因として、【地図】の等高線からB地点とC地点を比較し、標高差から地層の傾きを判断していると考えられ、授業において等高線と地層の違いを明確に捉えるような指導や、等高線を立体的に捉える指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、身近な地形と等高線を関連させて等高線を立体的に捉えたり、地形や断面図と関連させて複数の方向から見た山の形を考えたりする活動を取り入れることが大切である。また、複数の方向から見た山の形と柱状図を関連付けて、どのように地層が広がっているのかを考える学習活動を充実する必要がある。

③ 改善事例 第1学年「地層の重なり方や広がり方」

|  |
|--|
| 1 指導のねらい                               |
| 等高線を立体的に捉え、等高線や柱状図から地層の広がりを思考する力を育成する。 |

## 2 具体例

### 課題 <地層はどのように広がっているのだろうか>

#### (1) 等高線を立体的に捉える。

##### ① 身近な地形と等高線や断面図を関連させる。

※ 1人1台端末を使い、自宅付近や富士山など個々が見たい場所の等高線や断面図を調べる場を設定する。



学校の窓から見える山はどのような等高線になるのかな？



#### 【参考資料】

国土地理院

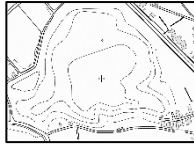
<https://maps.gsi.go.jp/>



国土地理院の地図で身近な地形を確認しましょう。



なるほど、等高線ではこのように表されるのね。等高線の間隔が狭い所ほど斜面は急だね。



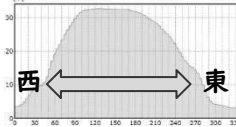
#### 【ポイント1】

国土地理院のwebページを活用し、身近な地形と等高線・断面図を関連付け、等高線を立体的に捉える。

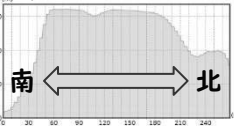


断面図を調べれば、この山を南や東から見たときの山の形が分かるね。

南から見たとき



東から見たとき



身近な地形の断面図も見ることができます。

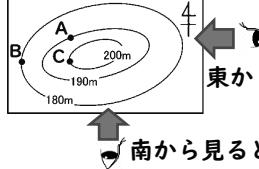


#### ② 【地図】の等高線から、東西方向、南北方向の山の形を考える。

等高線の間隔に着目して、山の斜面を考えればよいね。



#### 【地図】



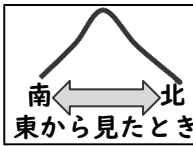
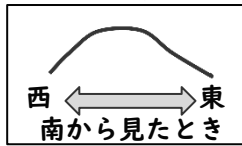
東から見ると...

南から見ると...

今度は【地図】の等高線から山の形を立体的に考えてみましょう。



さっきの断面図みたいに、南からや東から見たときの山の形を考えるといいと思う。



#### 【ポイント2】

等高線から斜面の傾きを考え、複数の方向から見た山の形を考える。

山の形をもとに、【柱状図】から地層の広がりやつながりを考えてみましょう。



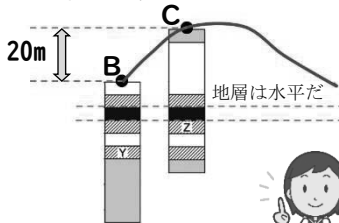
#### (2) 自分の描いた山に柱状図を書き入れ、柱状図のない部分の地層を考える。

##### 【ポイント3】

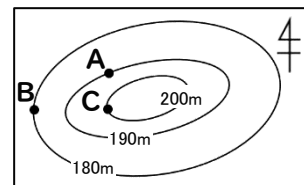
複数の方向から見た山の形に標高差を考慮して柱状図を書き入れ、地層のつながりや広がりを考える。

#### ① 地層の傾きがない方向 (B地点とC地点) から考える。

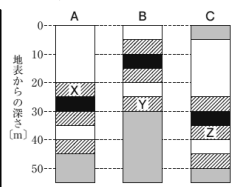
図1 南から見たとき



BとCを比べるには、南から見たときの図が使えるね。標高が20mちがうから、図1のようになるわ。



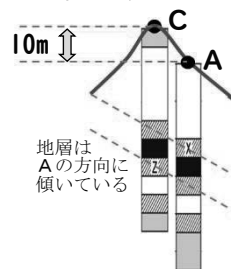
#### 【柱状図】



■ 凝灰岩

#### ② 次に①を参考に、地層が傾いている方向 (A地点とC地点) を考える。

図2 東から見たとき



AとCを比べるには、東から見たときの図が使えるよ。AよりCの方が南に位置していて、標高が10m高いから、図2のようになるよ。



#### (3) 地層の広がりやつながりについて考える。

凝灰岩の層をポイントにして、地層の広がりやつながりをまとめていきましょう。



南から見たときの図で、標高差を考慮してBとCを比べると、地層が傾くことなく、水平に広がっていることが分かるわ。

東から見たときの図で、標高差を考慮してAとCを比べると、凝灰岩の層が北の方が低い位置になっているよ。この地域では、地層が全体的に北の方向に低くなるように傾いていることが分かるよ。



## 中学校第3学年 英語

|        |       |
|--------|-------|
| 県平均正答率 | 学校正答率 |
| 51.9%  | %     |

### (1) 全体的な傾向の分析・考察

令和3年度の平均正答率は51.9%で、平成30年度より2.0ポイント下回った。どの領域においても到達状況は不十分である。問題内容や形式を変更したことが、要因の1つとして考えられる。「聞くこと」においては、英語を聞く回数を1回に、聞き取った内容を英語で書く解答形式に、「読むこと」においては、まとまりのある文章を読んで、話の概要や要点、書き手の意見などを捉える問題に変更した。

「書くこと」においては、目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さと、英語使用の正確さに依然、課題が見られる。全領域において学習指導要領を踏まえた授業改善が一層求められる。

### (2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率：59.7%) (学校正答率： %)

#### ◇：話しかけの内容に適切に応じること〔3〕

設問3は、いずれも基準に到達している。指導に当たっては、今後も既習表現などを用いてや

| 設問番号 | 問題の内容  | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|--|--------|-------|
| 3    | No. 2 話しかけ (What's wrong?) に応じること                  | 71.8%  | %     |
|      | No. 3 話しかけ (Let's go together next Sunday.) に応じること | 71.9%  | %     |

(県) H30：事例1 (全) R1：4 (県) H28～R2：3

り取りするよう努めるとともに、目的や場面、状況に応じて、話し手の意図を正しく理解し、相手の発話

に応じたり、質問したりするなど、複数の領域を統合した言語活動を一層充実させる必要がある。

#### ▼：まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解すること〔4〕

設問4については、p.48参照。指導に当たっては、次のよ

| 設問番号 | 問題の内容                           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------------------|--------|-------|
| 4    | No. 1 情報を整理しながら必要な情報(交通手段)の聞き取り | 49.4%  | %     |
|      | No. 2 情報を整理しながら必要な情報(会う場所)の聞き取り | 48.3%  | %     |
|      | No. 3 情報を整理しながら必要な情報(会う時間)の聞き取り | 24.9%  | %     |

うな点を充実させることが必要である。

(県) H27：事例1 (全) R1：3 (県) H28～R2：4

・聞く際には、目的や場面、状況を明示し、どういう情報が必要かを考えさせた上で、その部分に集中して聞き取らせるなど、目的に応じた聞き取り方を指導すること

【読むこと】 (県平均正答率：53.5%) (学校正答率： %)

#### ▽：言語の使用場面や働き、語句の役割に気を付けながら、短い英文を正しく理解すること〔5〕

設問5 (2)は study, (3)は are, (6)は前後で同じ表現が

| 設問番号 | 問題の内容                           | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------------------|--------|-------|
| 5    | (2) 三人称単数現在形を用いた英文の理解           | 55.1%  | %     |
|      | (3) be動詞の過去形を用いた英文の理解           | 64.4%  | %     |
|      | (6) 言語の使用場面(生徒の身近な暮らし)に応じた英文の理解 | 58.2%  | %     |

使われている選択肢を選ぶ誤答が多かった。要因として、語や文法

(全) R1：5(1) (県) H28～R2：5

事項などの知識が実際のコミュニケーションで活用できる程度に身に付いていないことや、前後の文脈から判断して解答できていないことが考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

・言語材料が使用される自然な場面を設定し、その中で当該言語材料を含めて話されたり、書かれたりしている内容を捉えさせることを通じて、当該言語材料の意味や使い方の気付きを促すこと  
 ・指導したい言語材料を多く使って教師が話したり、生徒と豊富にやり取りしたりすること



▼：まとまりのある文章を読んで、話の概要や要点、書き手の意見などを捉えること〔9, 10〕

設問9は、30年度と関連する設問であるが、正答率は下回った。設問10は新聞である。これらの設問については、p.50参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

| 設問番号 | 問題の内容                     | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|---------------------------|--------|-------|
| 9    | 話のあらすじの読み取り               | 39.6%  | %     |
| 10   | (1) 書き手が最も伝えたい内容の読み取り     | 33.5%  | %     |
|      | (2) まとまりのある文章の概要の読み取り     | 29.1%  | %     |
|      | (3) 書き手の伝えようとする内容の適切な読み取り | 20.9%  | %     |

(県) R2：事例2 H28：事例2 (全) R1：6, 7, 8 (県) R2：9, 10

- ・まとまりのある文章を最初から最後まで読み、「必要な情報」「概要」「要点」を捉えるなど、目的に応じた読み取り方を指導すること
- ・読み取った内容を基に、自分の体験や考えなどと結び付けながら発信する活動を行うこと

【書くこと】 (県平均正答率：43.3%) (学校正答率：%)

▼：語順や語形に気を付けながら、場面や状況に応じて正しく書くこと〔6, 11〕

設問6(1)(2)は、30年度と関連する設問である。どちらも正答率は上昇したが、依然として50%を下回っており、不十分である。設問11も、依然として正答率は不十分であ

| 設問番号 | 問題の内容                      | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|------|----------------------------|--------|-------|
| 6    | (1) 主語+動詞+目的語+目的語を用いた英文の語順 | 49.2%  | %     |
|      | (2) 疑問詞を用いた英文の語順           | 45.4%  | %     |
| 11   | ② 状況に合う英文(動詞)への書きかえ        | 23.5%  | %     |
|      | ③ 状況に合う英文(接続詞)への書きかえ       | 23.6%  | %     |

(県) R2：事例1 H30：事例2 H27：事例2 (県) H28~H30：6, 10 R2：6, 11

る。指導に当たっては今後も、次のような点を充実させることが必要である。

- ・「言語活動→指導」の指導過程を通して、生徒に言語材料の意味や使い方などへの気付きを促すとともに、実際のコミュニケーションの場面で言語材料を繰り返し使いながら定着を図ること
- ・言語活動に取り組む際に、活動に必要な言語材料を示し過ぎないようにすること。目的や場面、状況に応じて、生徒自身が使用する言語材料などを思考・判断・表現できるようにすること

▼：自分の考えや気持ちが伝わるよう、まとまりのある文章を書くこと〔12〕

設問12は、正答率が30.9%と不十分であり、30年度から25.2ポイント下回った。内容面で適切でないもの、言語面で誤りがあるものなどの誤答が多かった。今後も、次のような指導の充実が必要である。

| 年度  | 問題の内容         | 県平均正答率 | 学校正答率 |
|-----|---------------|--------|-------|
| H30 | 将来の夢          | 56.1%  | %     |
| R3  | ホームステイ先でしたいこと | 30.9%  | %     |

(県) H29：事例2 H26：事例2

(全) R1：10 (県) H28~H30：11 R2：12

- ・1文1文を正確に書く指導とともに、接続詞や副詞、代名詞などを用いて文と文のつながりを考えながら、求められている内容を適切に表現し、読み手に伝わる英文を書く指導を一層工夫すること
- ・書く前にペアなどで伝え合ったり、ウェビングなどでアイディアを出したり、書いた後に生徒同士で読み合い、内容について質問をしたり、伝え方についてコメントを述べたりするなどの活動を取り入れること

指導改善のポイント

- まとまりのある英語を聞いて、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を聞き取る力を高めるための学習活動を工夫すること (→ 事例1)
- まとまりのある文章を読んで、概要や要点を捉える力を高めるための学習活動を工夫すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1

ア 事例1

まとまりのある英語を聞いて、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を聞き取る力を高めるための学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号 | 領域・分野 | 出題のねらい                          | 評価の観点    |
|------|-------|---------------------------------|----------|
| 4    | 聞くこと  | まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。 | 外国語理解の能力 |

4 《メモ》

To Mike,  
 Kota wants to change the plan for tomorrow.  
 **How** : Kota's mother's car ⇒ ( No. 1 )  
 **Place to meet** : Kota's house ⇒ ( No. 2 )  
 **Time to meet** : 9:30 ⇒ ( No. 3 )  
 Please call him tonight.  

Yumi

(リスニング問題文)

**【日本語】**  
 次に、問題4に移ります。この問題では、光太さんからの留守番電話のメッセージが流れます。そのメッセージを聞いた由美さんが、彼女の家にホームステイをしているマイクさんに内容を知らせるため、メモにまとめています。問題用紙の《メモ》のNo.1～No.3にあてはまる英語1語もしくは数字を解答用紙に書きなさい。英文は2回流れます。それでは、始めます。

**【英語】**  
 Hello, Mike. This is Kota. I want to change the plan for tomorrow. We were planning to meet at my house at nine thirty and go to a movie in my mother's car. But I must go to school in the morning. Why don't we watch a movie in the afternoon? We need to use a bus to go to the movie theater because my mother will be busy. Let's meet at the station. The movie will start at two. It will take about forty minutes to go to the theater. I think meeting at one is good for us. Please call me tonight. Bye.

| 正答例              |                       |                  |                     | 誤答例        |               |            |                                      |
|------------------|-----------------------|------------------|---------------------|------------|---------------|------------|--------------------------------------|
| No.1 bus(Bus)    | No.2 station(Station) | No.3 1(p.m.)     | 1:00(p.m.) 13 13:00 | No.1 movie | No.2 my house | No.3 2:00  | ※上記以外に、No.1,2については、日本語の解答による誤答が見られた。 |
| 正答率 (準正答率)       |                       |                  |                     | 誤答率        |               | 無解答率       |                                      |
| No.1 49.4%(3.9%) | No.2 48.3%(8.7%)      | No.3 24.9%(0.0%) | No.1 31.5%          | No.2 29.0% | No.3 54.6%    | No.1 19.1% | No.2 22.7%                           |
|                  |                       |                  |                     |            |               | No.3 20.5% |                                      |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる」である。

ここでは、上記のような誤答が見られた。要因の1つとして、目的や場面、状況の設定が不明確で、何を聞き取ればよいかを生徒が理解しないまま、聞く活動に取り組ませていることが考えられる。

指導に当たっては、目的や場面、状況を明示して、どういう情報が必要かを考えさせた上で、その部分に集中して聞き取らせるなど、目的に応じた聞き取り方を指導する必要がある。

また、正しい強勢やイントネーション、区切りを伴った自然な速さで話される英語に普段から触れさせたり、英語を1回だけ聞いて理解したり応じたりする活動にしたりすることで、自然な英語の使用場面に近づけるようにする。複数回繰り返す場合でも、異なる聞き取り方をさせたり、音声面に着目させたりするなど指導を工夫する必要がある。

③ 改善事例 全学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

まとまりのある英語を聞いて、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を聞き取ることができる。

2 具体例

【導入】目的や場面、状況を明確にする

There will be an English camp this Saturday. Your ALT will join the camp with you. You need information about the camp and he needs it, too. Please listen to the announcement and get information. When you listen, please take notes. I will give them to him.

指導のポイント

【導入】

具体的な目的や場面、状況を設定し、聞く見通しをもたせる。

【展開①】聞く前に、どのような情報が必要かを考えさせる

（生徒の日本語の発話を英語で言い換えたり、板書したりして、英語表現に気付かせていく）

【展開①】

What information do you need?  
 Good. Place and time. What are the key words?  
 OK. Anything else?  
 Nice idea. What are the key words?  
 Yes. You have to bring or need...  
 What information will you hear first?

場所とか時間!  
 At とか in とか?  
 持ち物!  
 Bring, need.  
 Place or time?

目的や場面、状況に応じてどのような情報が必要かだけでなく、そのための聞き取り方についても考えさせる。

- 必要とする情報に関連する表現に着目
- 展開を予想 など

【展開②】

正しい強勢やイントネーション、区切りを伴った自然な速さの英語を聞かせる。

【展開②】情報を把握・整理させながら、聞き取らせる

Please listen carefully. I will tell you about the English Camp at Sakura Hall this Saturday. It will start at 10 am, so please arrive there by 9:45. You don't have to bring lunch. You will be making curry and rice with your friends and the ALTs. Don't bring any snacks! Any questions?

自分の力で情報を把握・整理していけるようにするために、例1から例2のように、「何を聞き取ればよいかを生徒自身が判断し、メモできるようなワークシート」へと、支援を調整していく。

例1

|        |                     |
|--------|---------------------|
| Place  | Sakura Hall         |
| Time   | 9:45                |
| Things | Handbook, pencil... |
| Others |                     |

例2

Task: 必要な情報を聞きながら、メモを取ろう。

【展開③】ワークシート・やり取りの状況から、理解度を把握し、指導する

【展開③】

（下のやり取りの前に、場所や集合時間、持ち物について確認する）

Did you catch any other information?  
 Do you have to bring lunch?  
 Lunch, curry and rice.  
 I don't know.  
 You have to or don't have to? Which part should we listen to? The first part or the last part?  
 Last?

なるべく1回で情報を把握するよう促すが、複数回聞く必要がある場合は、再度聞き取り方の確認をしたり、必要に応じて以下の指導(●)を行ったりすることも有効である。

- 聞き取れなかった部分を、スクリプトを見せて聞かせる。その後スクリプトなしで再度聞かせる。
- 音の連結や音の変化、音の強弱などが現れている部分を、スクリプトを見ながら聞かせ、確認する。
- 聞けなかった箇所を意識しながら音読させる。

【まとめ】「必要な情報を聞き取る力」の達成状況を把握する

【まとめ】

（別のテキストを用いて、本時で学習した聞き取り方の定着状況を把握する）

達成状況を把握し、次時以降の指導に生かす。

イ 事例2

まとまりのある文章を読んで、概要や要点を捉える力を高めるための学習活動を工夫すること

① 問題と解答の状況

| 設問番号       | 領域・分野 | 出題のねらい                           | 評価の観点    |
|------------|-------|----------------------------------|----------|
| 10 (1) (2) | 読むこと  | まとまりのある文章を読んで、話の概要や要点を捉えることができる。 | 外国語理解の能力 |

10 英語部の浩二 (Koji) さんは、最近考えたことを次のように英語版学校新聞の記事にしました。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【記事】

Last spring, we had no school for two months because the COVID-19 pandemic happened, and it changed our lives. We had to follow new rules. For example, we had to wear a face mask even in summer. I thought the COVID-19 pandemic gave us only bad things, but something changed my way of thinking.

The COVID-19 pandemic is difficult, but I found new ideas through this experience. I want to use them in the future.

(1) 記事の見出しとして最も適切なものを、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア Ways to Study at Home During the COVID-19 Pandemic
- イ What Are Good and Bad Points of the Internet?
- ウ What Do We Need to Solve a Problem?
- エ Communication Problems With Other People

(2) 記事の流れに合うように、次のア～ウの英文を順番に並べ替えなさい。

- ア When we can't do the same things as before, having different ways of thinking is important.
- イ People helped each other and did their best during a difficult time.
- ウ Many things changed in our lives last year.

| 正答例       |           | 誤答例       |           |                   |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------------|
| (1) ウ     | (2) ウ→イ→ア | (1) ア     | (2) ウ→ア→イ |                   |
| 正答率       |           | 誤答率       |           | 無解答率              |
| (1) 33.5% | (2) 29.1% | (1) 65.3% | (2) 68.2% | (1) 1.2% (2) 2.7% |

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「まとまりのある文章を読んで、話の概要や要点を捉えることができる」である。文章全体を通して読み、(1)は、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことを読み取れていないための誤答、(2)は、段落相互の関係を考えながら文章の流れを捉えられていないための誤答などが考えられる。

「読むこと」の指導において、1文1文を訳し、いくつか質問をして指導が終わるといような授業に終始していれば、本設問のねらいに到達することは難しい。

指導に当たっては、1語1語の意味や1文1文の解釈など、内容の特定の部分にのみとらわれたりすることなく、文章全体を通して読み、「概要」「要点」を捉える指導が必要である。そのためには、読む目的やテキストスタイル、内容を踏まえ、読み取らせたい情報を明確にし、それに応じた指導の工夫が求められる。

③ 改善事例 全学年（学習段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

まとまりのある文章を読んで、話の概要や要点を捉えることができる。

2 具体例



教科書本文を指導する際、いつも Q&A や T or F になってしまいます。他にどのような指導があるのか教えてもらえますか。

若手の先生

**Q&A や T or F**\*1 自体は大切な指導方法です。\*1: スマートスクールネット「英語の指導法」参照  
ただし、その指導が、**読む目的やテキストスタイル**\*2、**内容などに応じた適切な指導**かどうかを  
考えてみる必要があります。\*2: 「令和2年度『基礎学力調査』－指導事例－」参照



読む目的を設定する際の留意点はありますか。

単元末などに設定する**言語活動に向けて、本文をどのような目的で、どのように読ませる必要があるのか**を考えてみてください。Pre, While, Post の3つの読む段階に分けて、具体的な指導を考えていきましょう。



例

|   |   |
|---|---|
| <p>テキストスタイル：紹介文<br/>内容：世界遺産「富士山」の特徴と魅力</p>  | <p>テキストスタイル：コラム<br/>内容：世界遺産「ウルル」が抱える問題点</p>   |
| <p>言語活動「書くこと」<br/>学校の海外向けウェブサイトには、日本の世界遺産をアピールする紹介文を掲載しよう。</p> <p>読む目的<br/><b>どんな内容を伝えたらよいか</b>や、効果的に伝えるための<b>文章の構成</b>を学ぶ。</p> <p>読み方：<b>概要を捉える</b>。</p> | <p>言語活動「話すこと [やり取り]」<br/>世界遺産を観光する際に私たちが心がけるべきことについて、自分の考えを伝え合おう。</p> <p>読む目的<br/><b>世界遺産が抱える問題点</b>とそれに対する<b>筆者の考え</b>を理解する。</p> <p>読み方：<b>要点を捉える</b>。</p> |

**Pre-Reading** では、**関連する情報を聞かせたり、質問を投げかけやり取りしたり**して、背景知識を活性化させ、内容を理解しやすい状態にします。

**Pre-Reading**

(例)・タイトルや挿絵・写真に基づく内容の予想  
・質問（意欲を与える、経験や知識などと結び付けるなど）  
・Oral Introduction / Oral Interaction など

Oral Introduction などでは、**読もうとする文章の内容を与えすぎないように留意**してください。



**While-Reading** では、**読み方（必要な情報、概要、要点）**にふさわしい**課題（理解タスク）**を考えることが大切です。(例)に示している理解タスク以外にも、「英語の指導法」や国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」には、様々な理解タスクが掲載されています。

**While-Reading**

(例)・段落ごとに見出しを付ける。  
・論理展開をチャートにまとめる。  
・図や表にまとめる。  
・質問をする。  
(例) What's the first paragraph about?

(例)・重要な点に合うような見出しを選ぶ。  
・要点に合う英文を選ぶ。  
・質問をする。  
(例) What does the writer want to say?



**理解タスクは、生徒の実態に応じて、選択式にしたり、記述式にしたりする工夫**が必要ですね。「読むこと」の活動なので、「書くこと」の負担を軽減するようにしましょう。

**Post-Reading**

(例)・世界遺産を紹介した別の文章を読み、その内容を要約する。

(例)・要点について、自分の意見とその理由を書く。  
・要点を短くまとめて話したり書いたりする。



**Post-Reading** では、**読んで理解した内容を活用した話す・書く活動（複数の領域を統合した言語活動）**を行うことも大切です。また、**関連する内容の別の文章を読む**ことで、内容理解を深めたり、読む量を増やしたり、語彙や表現に繰り返し触れさせたりすることが期待できます。



今まで漠然と課題を与え、見通しが曖昧なまま指導していました。**読む目的を明確にして、適切な指導**をしていきたいと思っています。ありがとうございます。





## Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察





# 1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科等の授業の内容がよくわかると答えた児童の割合は、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は概ね良好である。

## 学びの12か条 + 4

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(93.2%)、「授業では、自分の考えを发表する機会があたえられていたと思う」(84.4%)児童の割合は、いずれも高い。

## 学びの12か条 + 8

○家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」(94.2%)児童の割合は、これまでと同様に高い。しかし、平日に勉強している時間が「30分より少ない」及び「全くしない」児童の割合(11.7%)は、R1年度(9.3%)より2.4ポイント増加している。

○「テレビゲームを2時間以上している」(33.0%)、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを30分以上している」(33.6%)児童の割合は、調査開始以来最も高く、今後、学習面や生活面においてどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。

○「学校のきまりを守っている」(90.7%)、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」(91.3%)児童の割合は、これまでと同様に高い。

以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

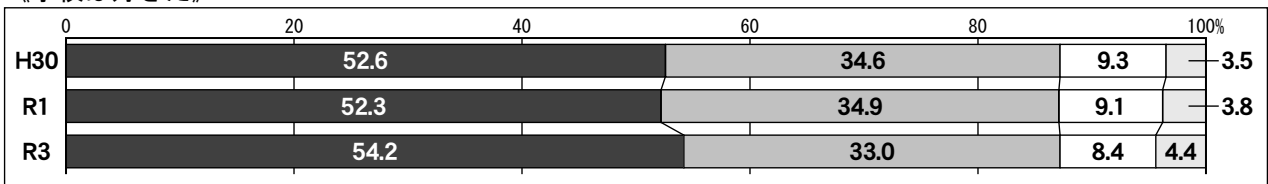
※無回答を除いた割合で示している。

# 1

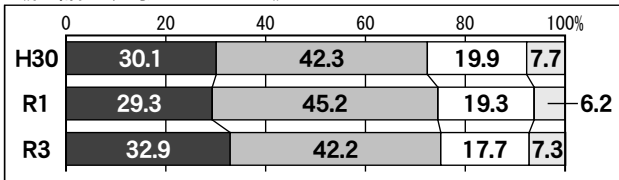
学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよくわかりますか。

あてはまる
  どちらかといえばあてはまる
  どちらかといえばあてはまらない
  あてはまらない

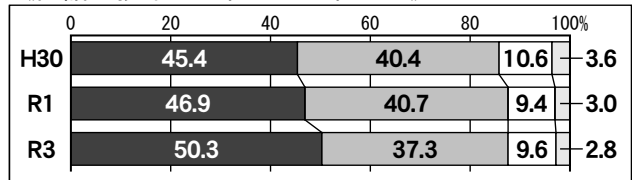
### 《学校は好きだ》



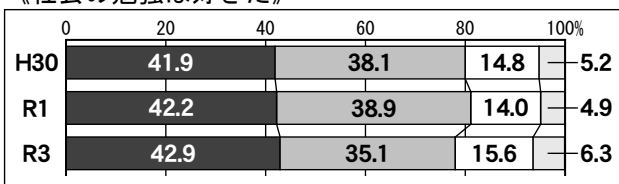
### 《国語の勉強は好きだ》



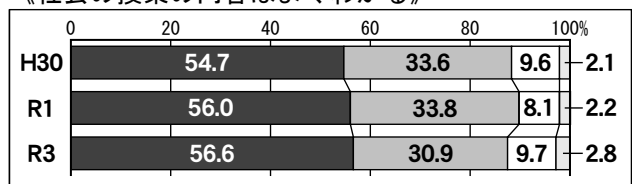
### 《国語の授業の内容はよくわかる》



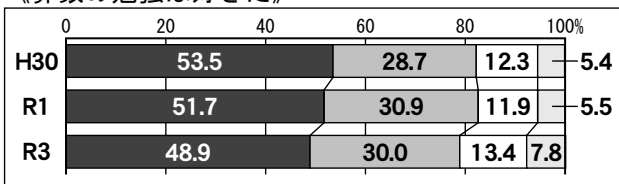
### 《社会の勉強は好きだ》



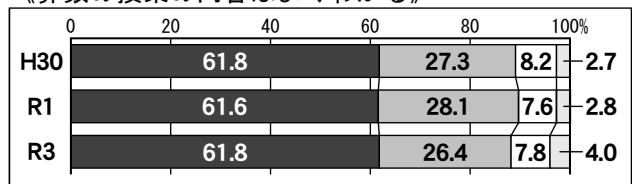
### 《社会の授業の内容はよくわかる》



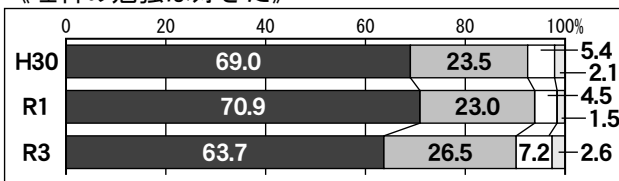
### 《算数の勉強は好きだ》



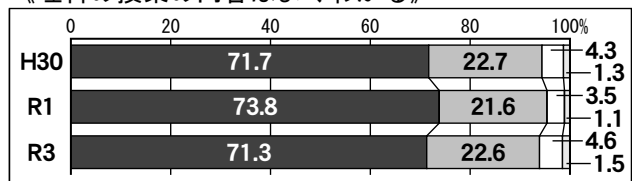
### 《算数の授業の内容はよくわかる》



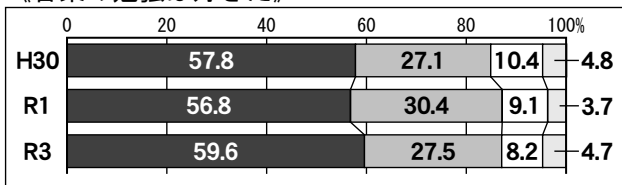
### 《理科の勉強は好きだ》



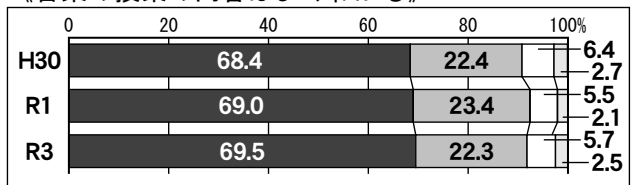
### 《理科の授業の内容はよくわかる》



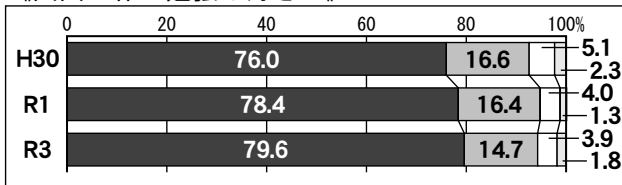
《音楽の勉強は好きだ》



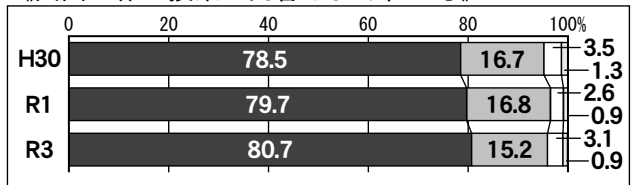
《音楽の授業の内容はよくわかる》



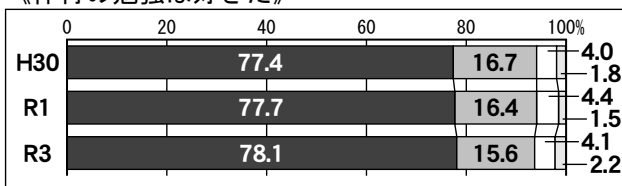
《図画工作の勉強は好きだ》



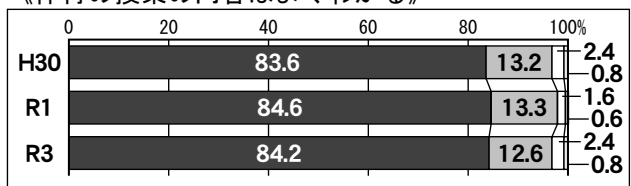
《図画工作の授業の内容はよくわかる》



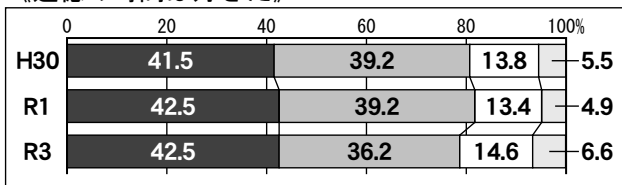
《体育の勉強は好きだ》



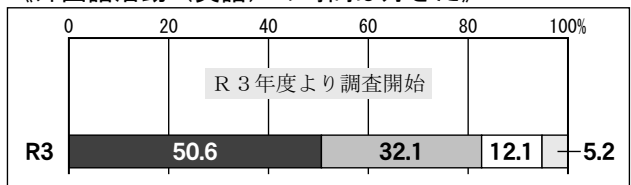
《体育の授業の内容はよくわかる》



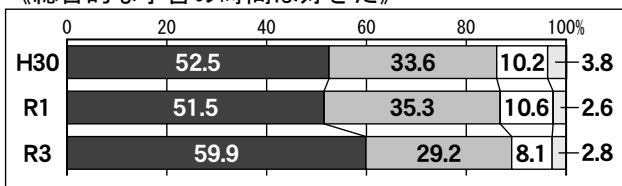
《道徳の時間は好きだ》



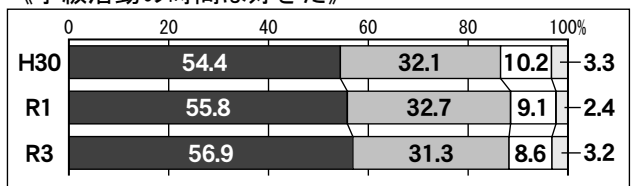
《外国語活動（英語）の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



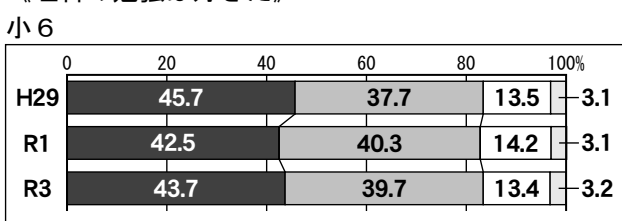
《学級活動の時間は好きだ》



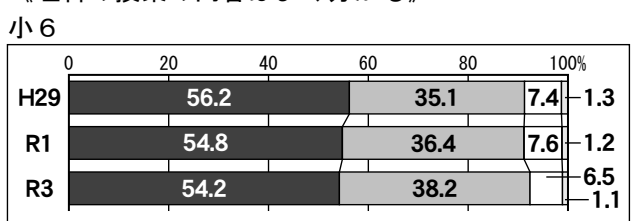
- ・《国語の勉強は好きだ》について、「あてはまる」と答えた児童の割合は、32.9%であり、R1年度より3.6ポイント増加している。
- ・《総合的な学習の時間は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、89.1%であり、R1年度より2.3ポイント増加している。

### <参考>

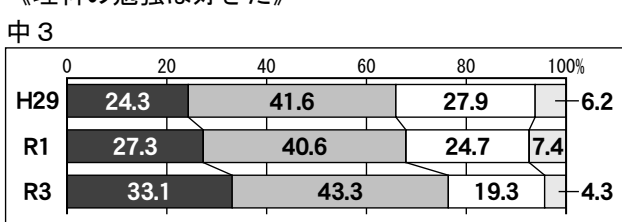
《理科の勉強は好きだ》



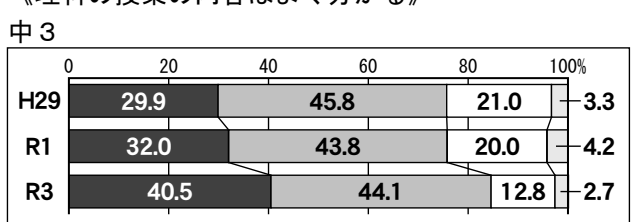
《理科の授業の内容はよく分かる》



《理科の勉強は好きだ》



《理科の授業の内容はよく分かる》



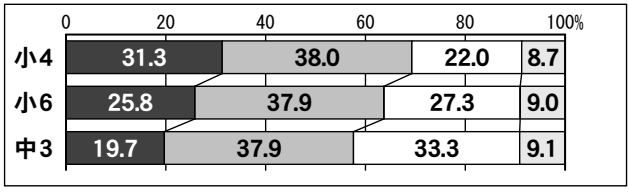
- ・《理科の勉強は好きだ》《理科の授業の内容はよく分かる》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3でそれぞれ76.4%、84.6%であり、調査開始以来最も高い。

## 2 授業の中で次のようなことは好きですか。

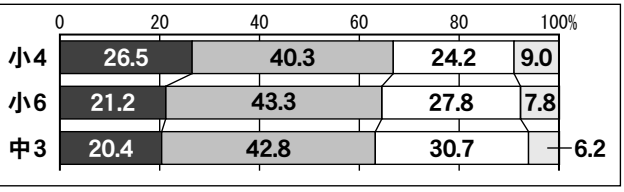
好き   
 どちらかといえば好き   
 どちらかといえば好きではない   
 好きではない

### <学年間比較>

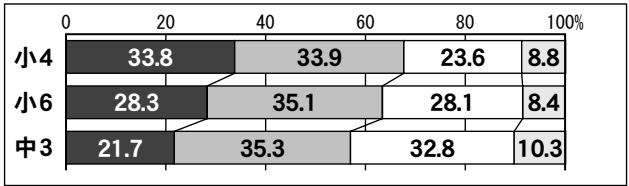
《自分の考えを発表したり、話し合ったりすること》



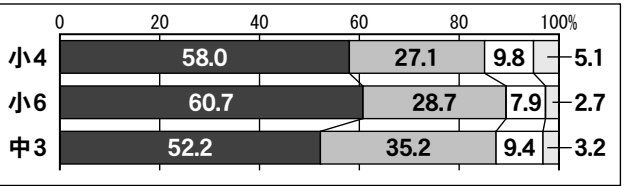
《わからなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



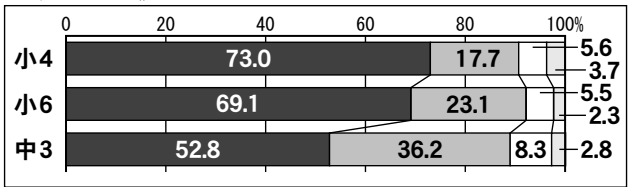
《教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること》



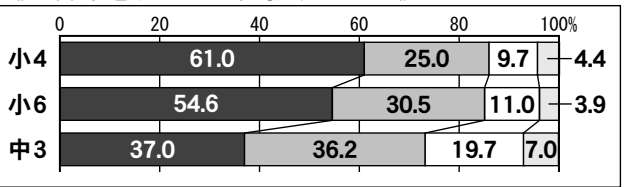
《少ない人数やグループで勉強すること》



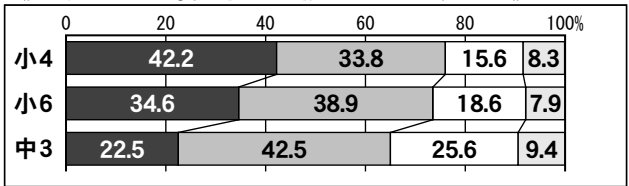
《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》



《図書館を利用して勉強すること》



《地域の人や専門家から教えてもらうこと》

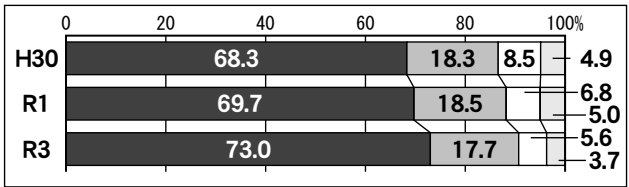


・《少ない人数やグループで勉強すること》《コンピュータやビデオ・DVDなどを使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、それぞれ85.1%～89.4%，89.0%～92.2%であり、いずれの学年においても高い。

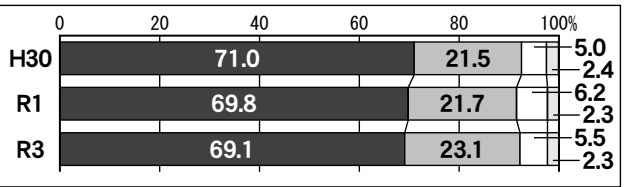
### <参考>

《コンピュータやビデオ・DVDを使って勉強すること》

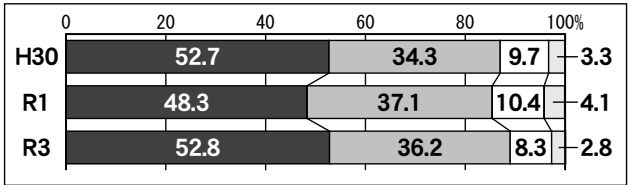
小4



小6



中3



・《コンピュータやビデオ・DVDを使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、R1年度より小4で2.5ポイント、小6で0.7ポイント、中3で3.6ポイント増加しており、どの学年も増加傾向である。中3の肯定的な回答をした生徒の割合は、89.0%であり、調査開始以来最も高い。

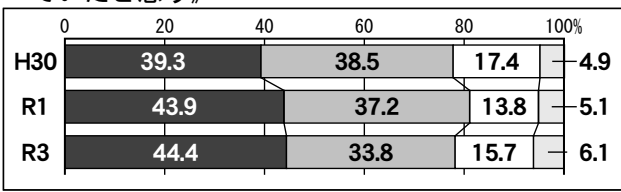
### 3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
  どちらかといえばあてはまる
  どちらかといえばあてはまらない
  あてはまらない

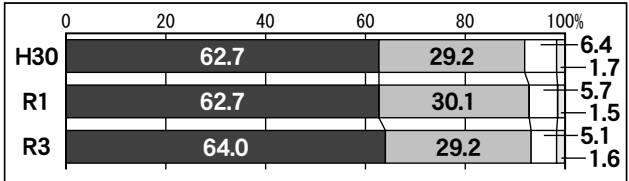
《授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



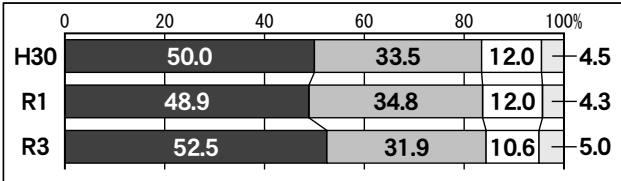
《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》



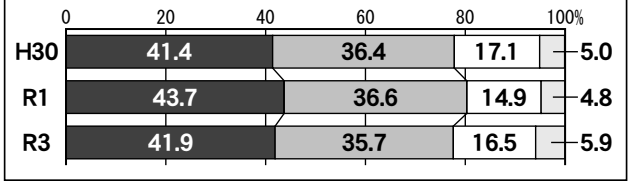
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



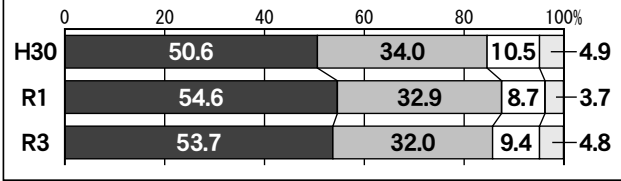
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



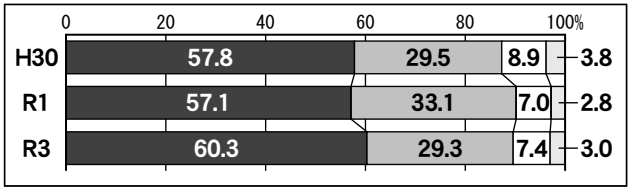
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



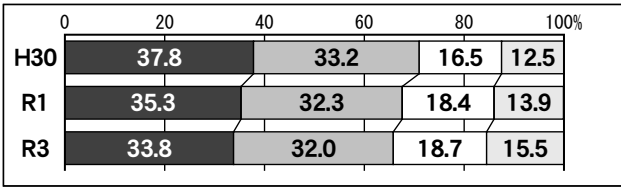
《先生は、あなたのよいところをわかってくれていると思う》



《先生は、授業やテストで間違えたところや、わからないところについて、わかるまで教えてくれる》



《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》



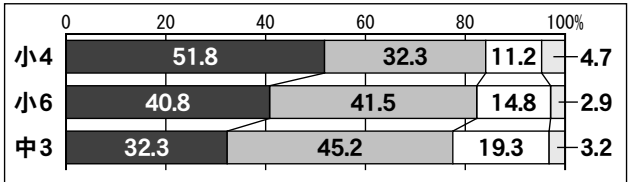
- ・《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、93.2%であり、これまでと同様に高い。
- ・《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》について、肯定的な回答をしている児童の割合は、65.8%であり、R1年度より1.8ポイント減少している。
- ・《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》の項目については、p.67参照。

#### <参考>

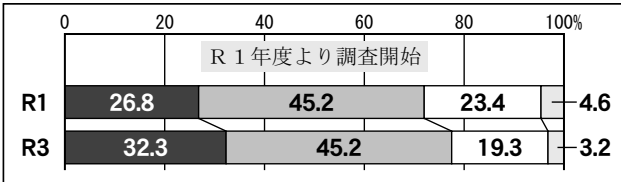
《問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》

《問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》

#### 学年間比較



#### 中3

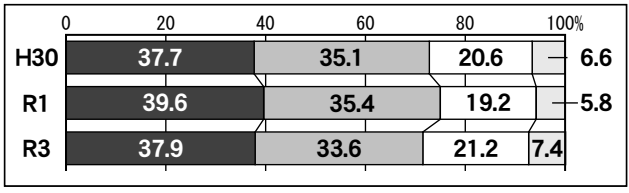


- ・《問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中3で77.5%であり、R1年度より5.5ポイント増加している。

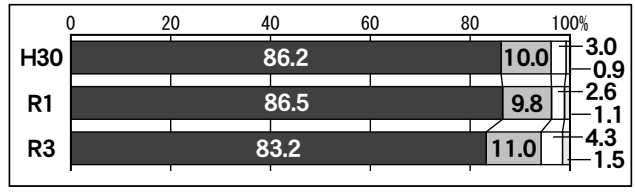
## 4 家で次のようなことをしていますか。

■ している    ■ どちらかといえばしている    □ あまりしていない    □ 全くしていない

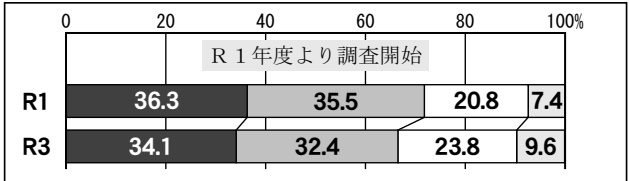
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《学校の宿題をしている》

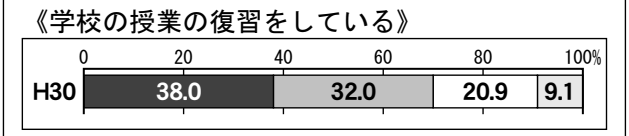
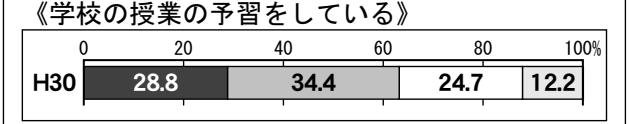


《学校の授業の予習・復習をしている》



※30年度までは、「学校の授業の予習をしている」「学校の授業の復習をしている」に分けて質問

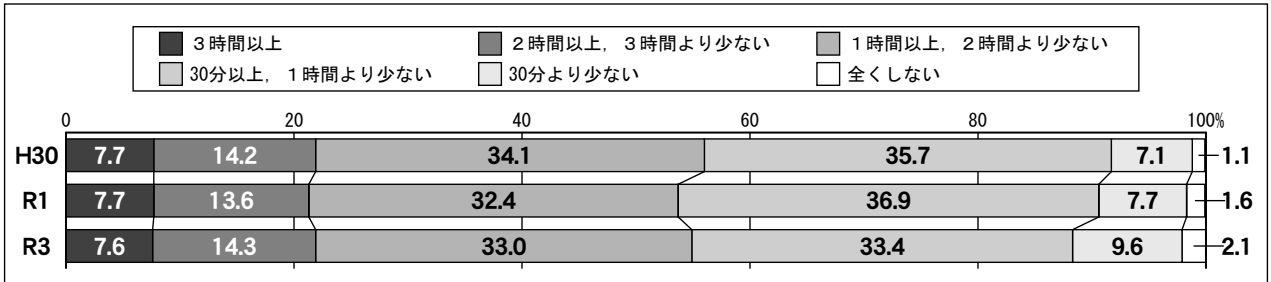
### <参考>



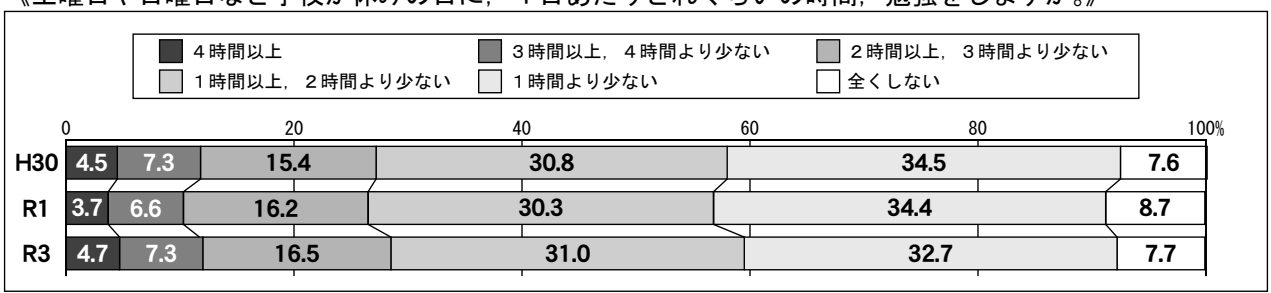
- ・《学校の宿題をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は94.2%であり、これまでと同様に高い。
- ・《学校の授業の予習・復習をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は66.5%であり、R1年度より5.3ポイント減少している。

## 5

《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



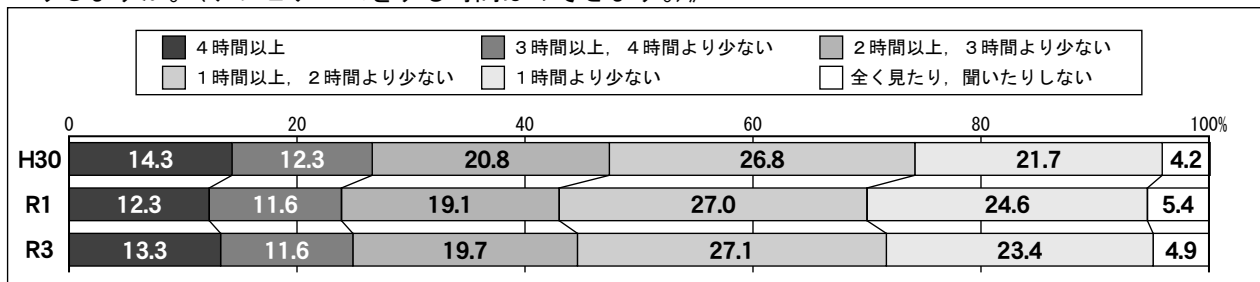
《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



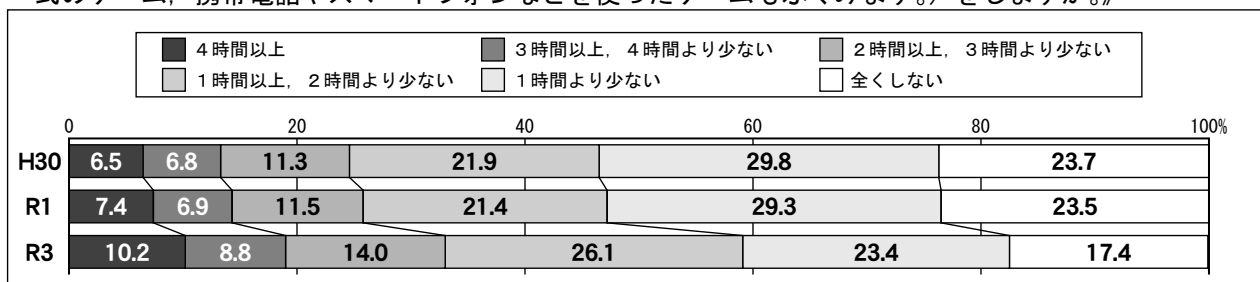
- ・家庭学習時間について、平日に勉強する時間が「30分より少ない」及び「全くしない」児童の割合は、11.7%であり、R1年度より2.4ポイント増加している。

# 6

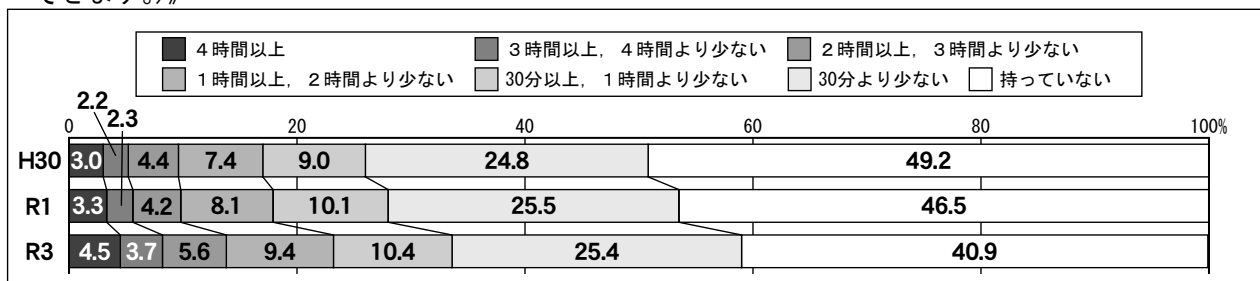
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲームをする時間はのぞきます。）》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。）をしますか。》



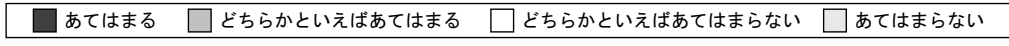
《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



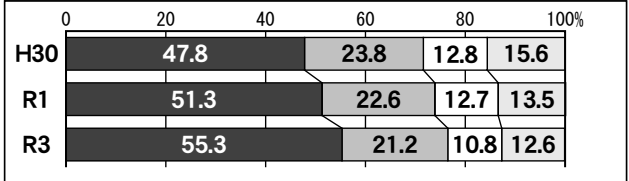
- ・ 普段のテレビゲーム等をする時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、33.0%であり、調査開始以来最も高い。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする時間について、「30分以上」と答えた児童の割合は、33.6%であり、調査開始以来最も高い。

7

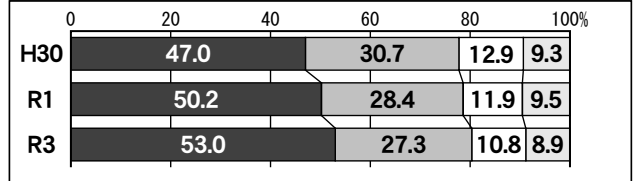
次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。



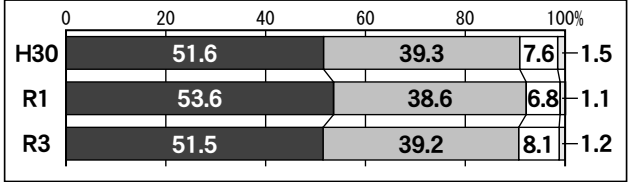
《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》



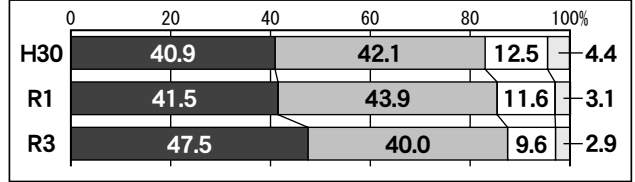
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません）と話をしている》



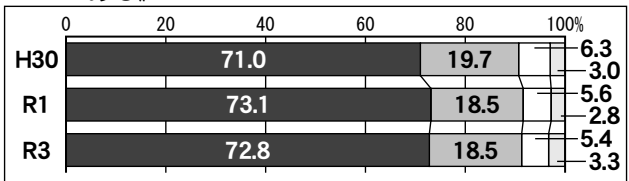
《学校のきまりを守っている》



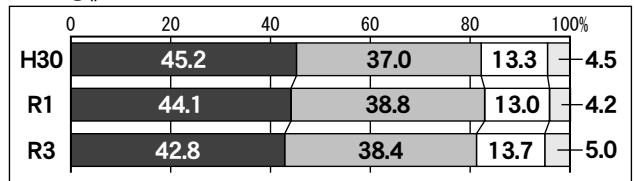
《人が困っているときは、進んで助けている》



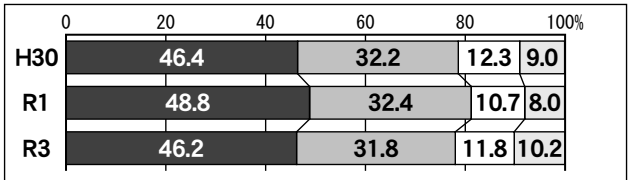
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



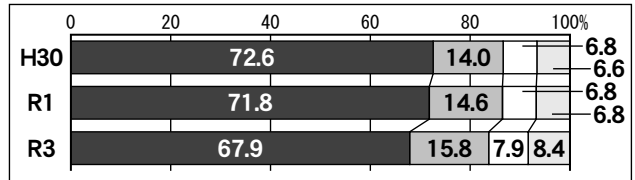
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



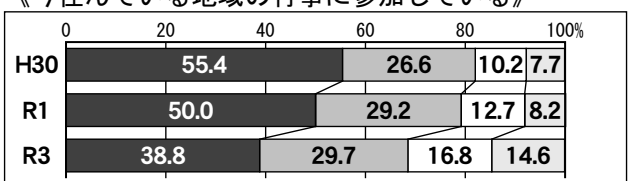
《自分には、よいところがあると思う》



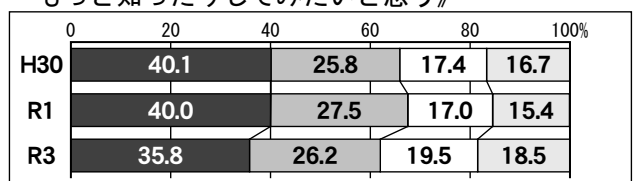
《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う》



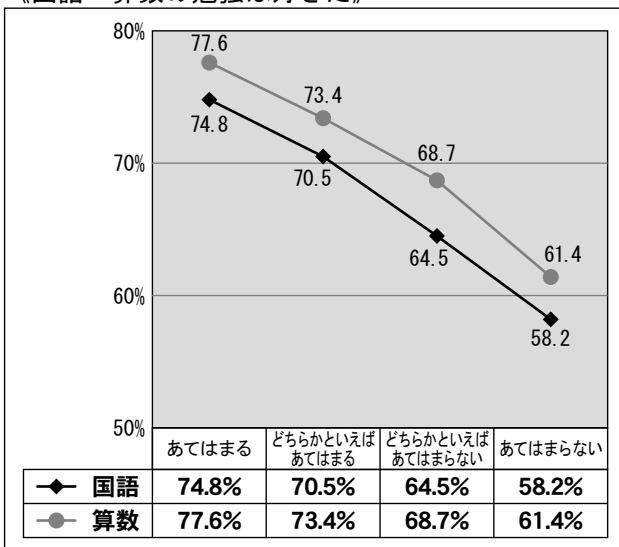
- 以下の項目について、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合の増加が顕著である。
  - 《人が困っているときは、進んで助けている》…………… 47.5% (6.0ポイント増加)
  - 《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》…………… 55.3% (4.0ポイント増加)
  - 《学校での出来事について、家の人(兄弟姉妹はふくみません)と話をしている》…………… 53.0% (2.8ポイント増加)
- 以下の項目について、「あてはまる」と積極的な回答をした児童の割合の減少が顕著である。
  - 《今住んでいる地域の行事に参加している》…………… 38.8% (11.2ポイント減少)
  - 《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う》…………… 35.8% (4.2ポイント減少)
  - 《将来の夢や目標を持っている》…………… 67.9% (3.9ポイント減少)
  - 《自分には、よいところがあると思う》…………… 46.2% (2.6ポイント減少)

## 2 学習・生活状況と正答率との関係

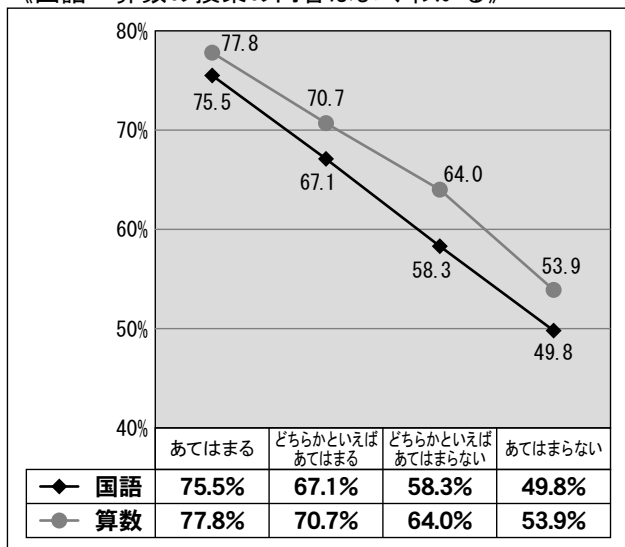
○小4児童の学習・生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよくわかる。
- ・授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする一日あたりの時間が少ない、または携帯電話やスマートフォンを持っていない。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

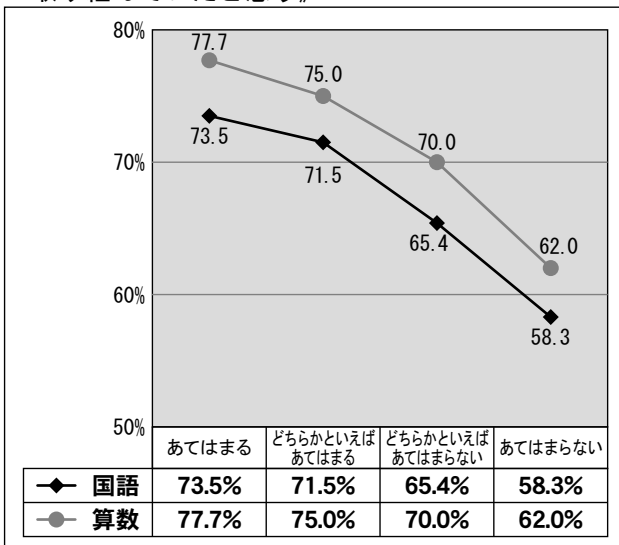
《国語・算数の勉強は好きだ》



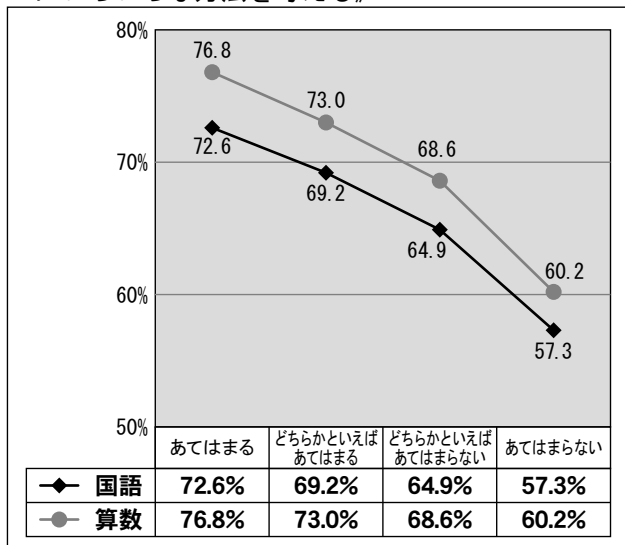
《国語・算数の授業の内容はよくわかる》



《授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》

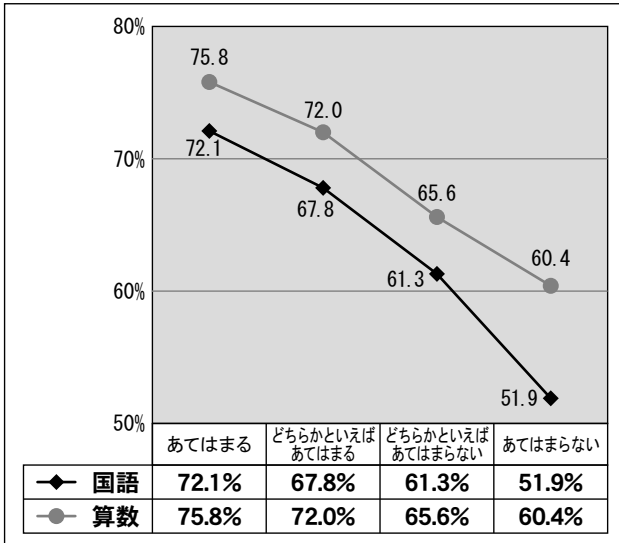


《問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》

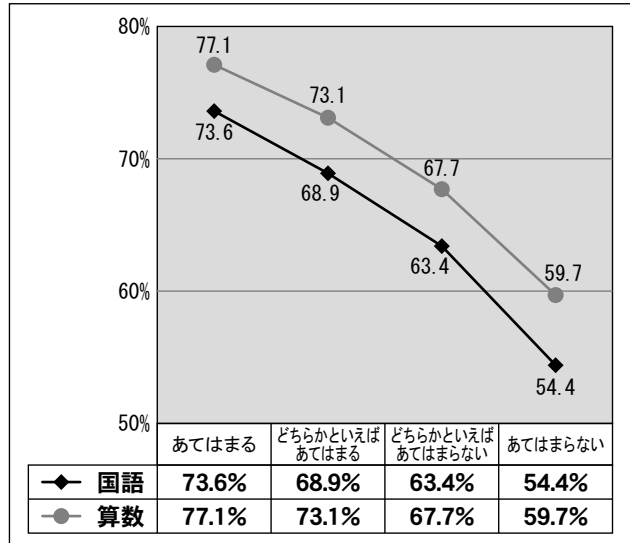




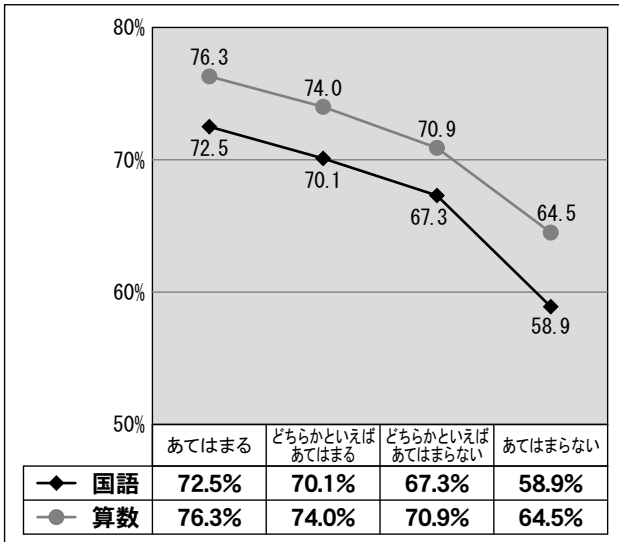
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



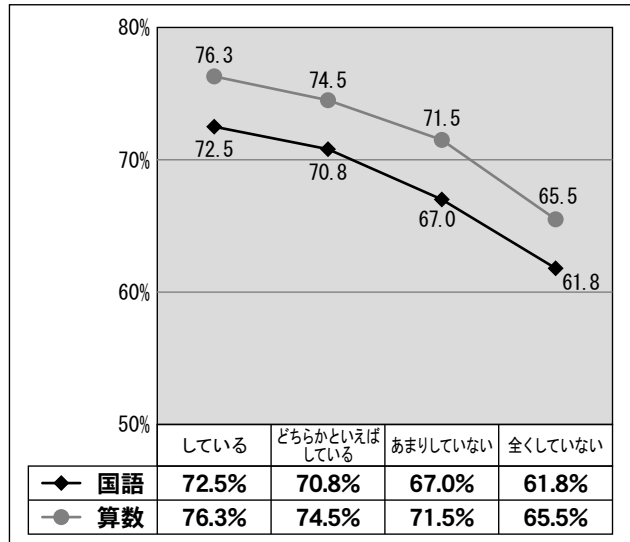
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）が示されていたと思う》



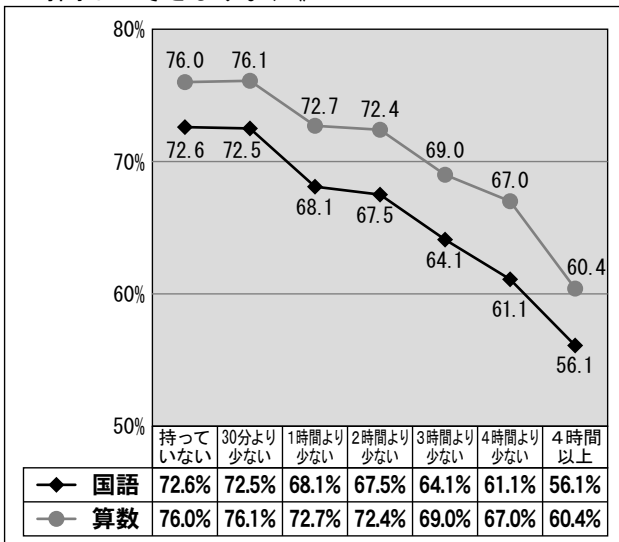
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



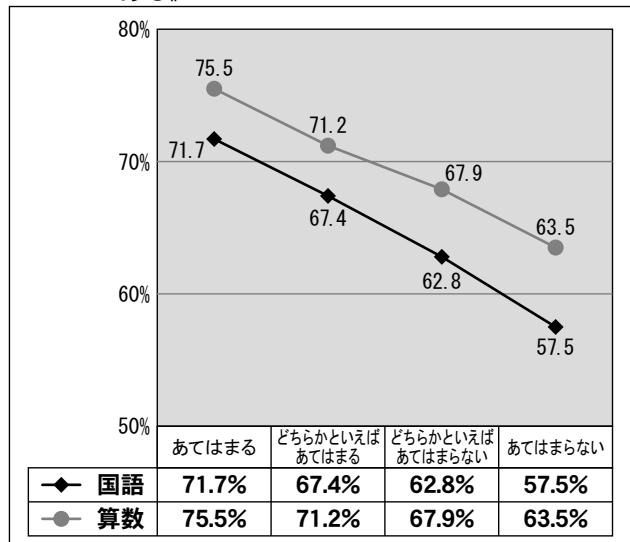
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。）》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



### 3 教員の調査結果

「1 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり（小学校で93.9%～98.3%、中学校で92.9%～96.6%）、学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

#### 学びの12か条 + 1・2

- 「児童生徒の様々な考えを引き出ししたり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は、小学校では96.5%、中学校では94.2%であり、これまでと同様に高い。
- 「問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は、小学校では93.9%、中学校では92.9%であり、これまでと同様に高い。

#### 学びの12か条 + 6・7

- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている」教員の割合は、小学校で96.5%であり、これまでと同様に高い。
- 「大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を行っている」について肯定的な回答をした教員の割合は、R1年度より小学校で9.3ポイント、中学校で11.1ポイント、それぞれ増加している。
- 「児童生徒がコンピューターなどのICT機器を使用した授業を行っている」について肯定的な回答をした教員の割合は、R1年度より小学校で14.5ポイント、中学校で25.9ポイント、それぞれ増加している。

#### 学びの12か条 + 10・11

- 「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」小学校教員の割合は、94.9%であり、これまでと同様に高い。

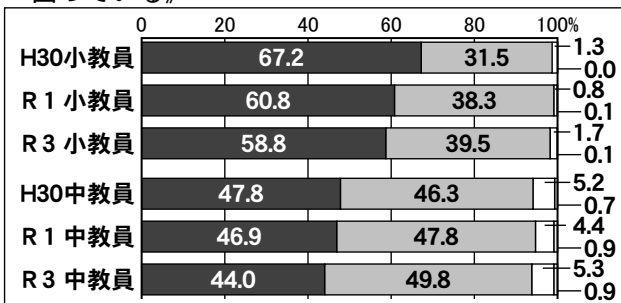
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を、昨年度からどの程度行っていますか。

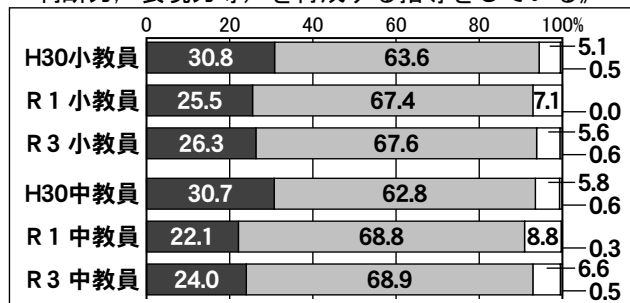


## 1 学力の重要な要素に関すること

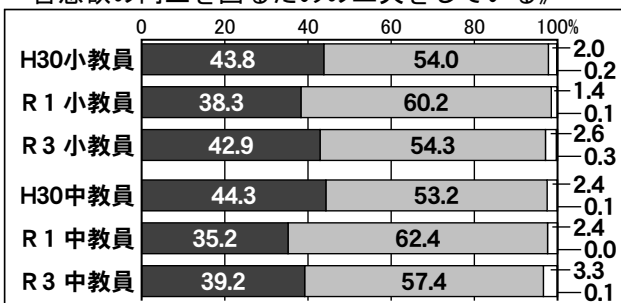
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力、判断力、表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》

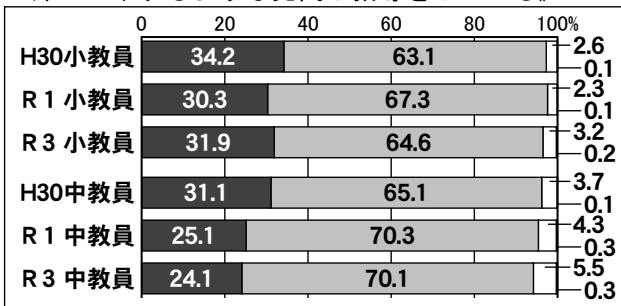


＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

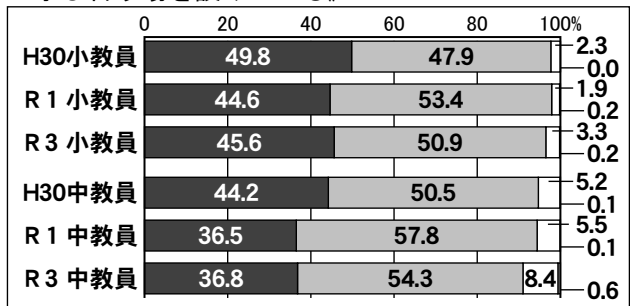
- ・《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について、「よくしている」と積極的な回答をした教員の割合は、R1年度より小学校で4.6ポイント、中学校で4.0ポイント、それぞれ増加している。

## 2 教科等に関すること

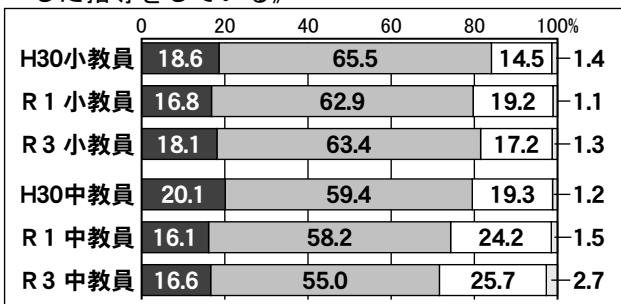
《児童生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をしている》



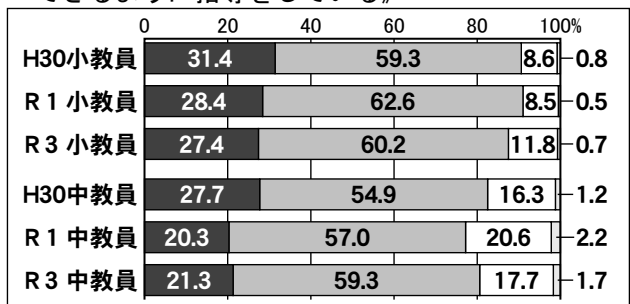
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して，学び合う場を設けている》



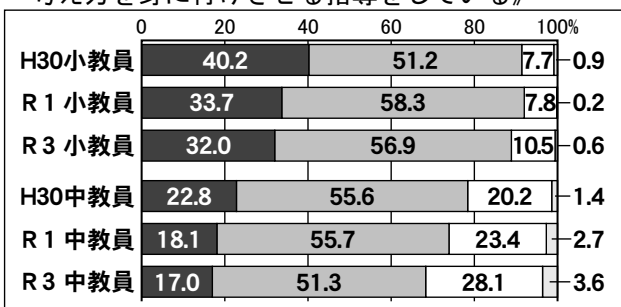
《記録，要約，説明，論述などの言語活動を重視した指導をしている》



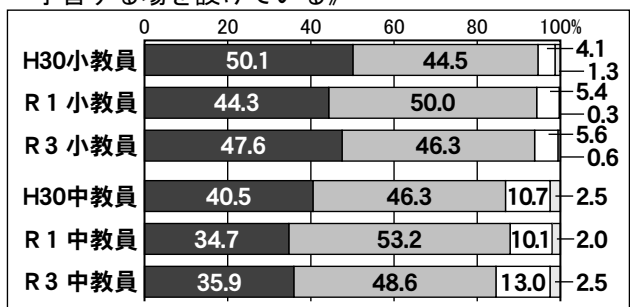
《考えの根拠や筋道を明確にして，説明や論述ができるように指導をしている》



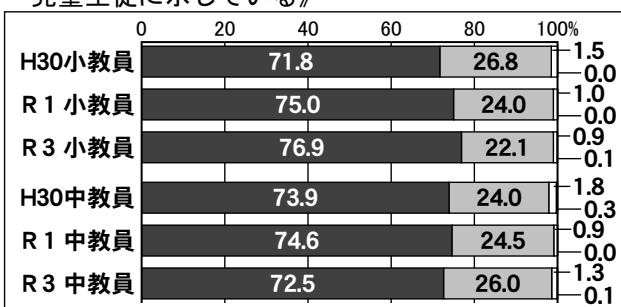
《ノート の書き方 やまとめ方などの指導を通して，考え方を身に付けさせる指導をしている》



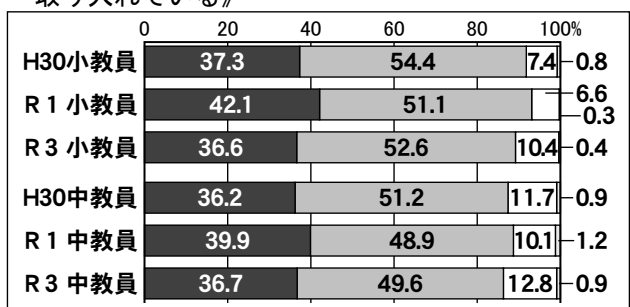
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



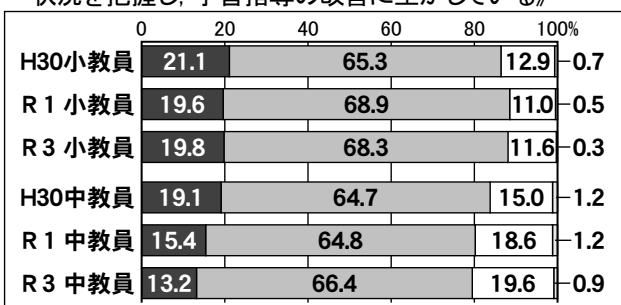
《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒に示している》



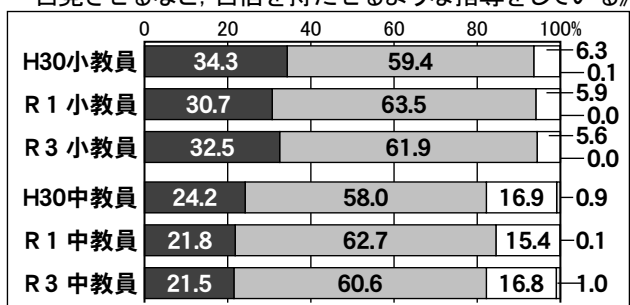
《授業の最後に，学習したことを振り返る活動を取り入れている》



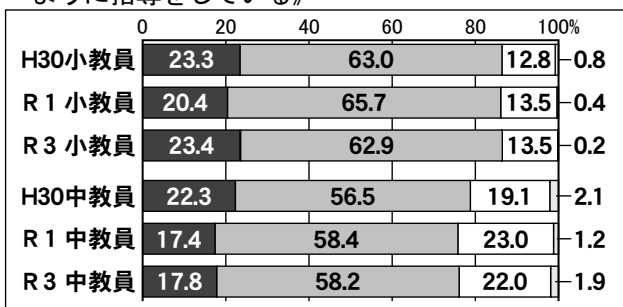
《授業において，明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し，学習指導の改善に生かしている》



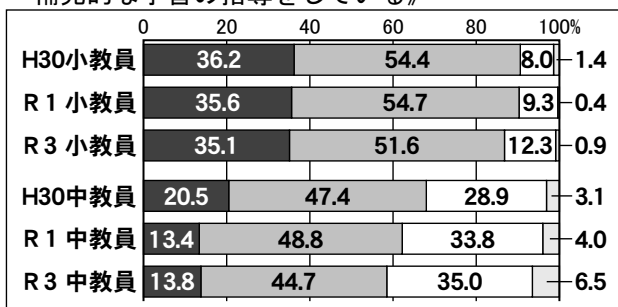
《授業において，児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど，自信を持たせるような指導をしている》



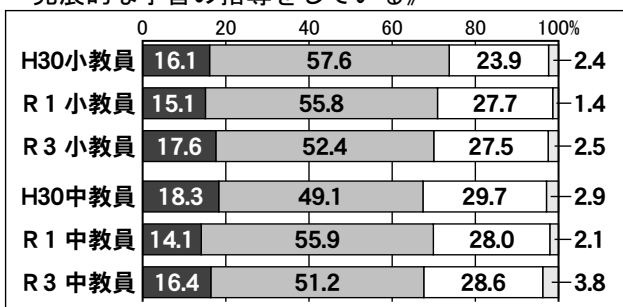
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるように指導をしている》



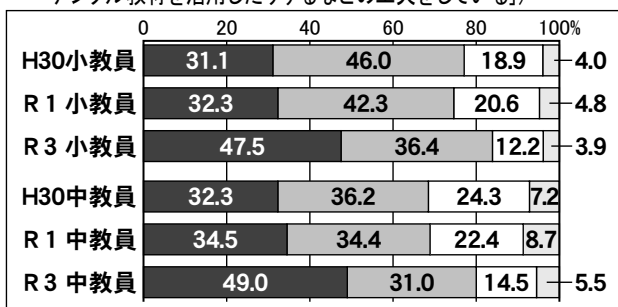
《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》



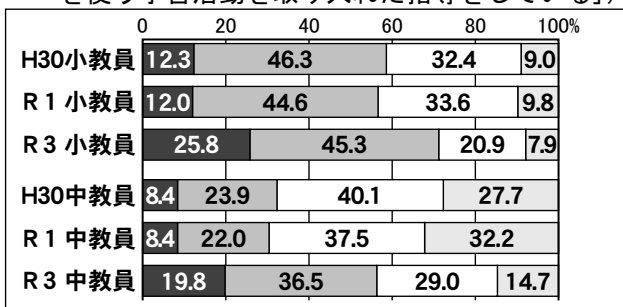
《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



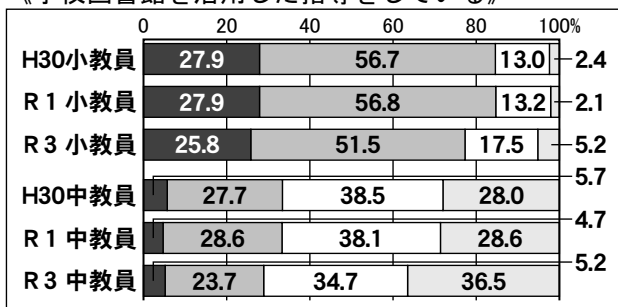
《大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を行っている》  
 (※R1年度までは「コンピュータなどを使って、資料を拡大表示したり、デジタル教材を活用したりするなどの工夫をしている」)



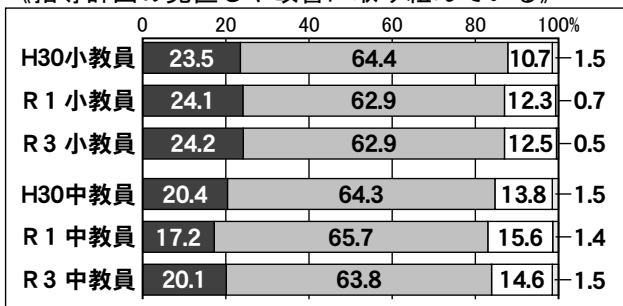
《児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている》  
 (※R1年度までは「児童生徒がコンピュータなどを使う学習活動を取り入れた指導をしている」)



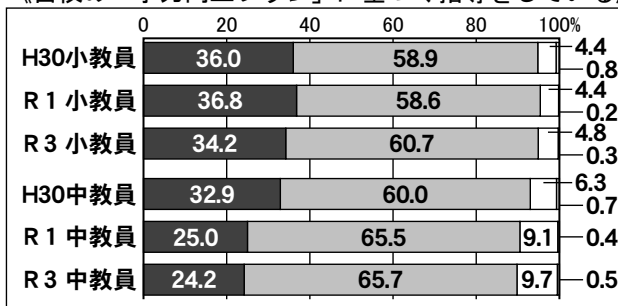
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

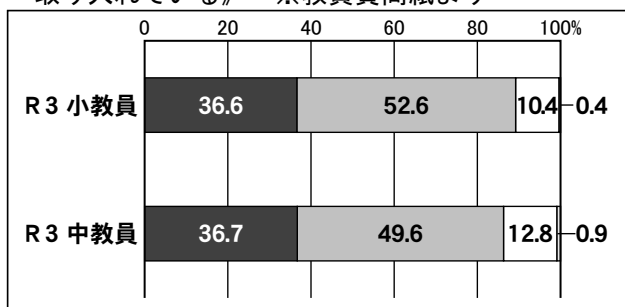
- ・《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》について、肯定的な回答をした小学校教員の割合は、いずれも96.5%であり、これまでと同様に高い。
- ・《授業の中で目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒に示している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.0%、中学校で98.5%であり、これまでと同様に高い。

＜R1年度と比べて上昇した項目＞

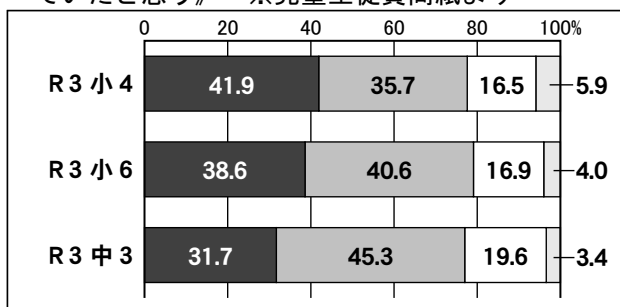
- ・《児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で71.1%、中学校56.3%と調査開始以来最も高く、R1年度より小学校で14.5ポイント、中学校で25.9ポイント、それぞれ増加している。

<その他、留意する項目>

《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》 ※教員質問紙より



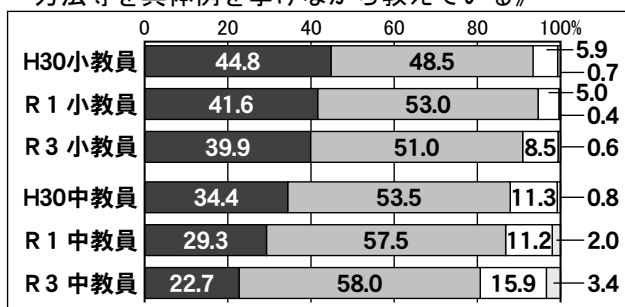
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》 ※児童生徒質問紙より



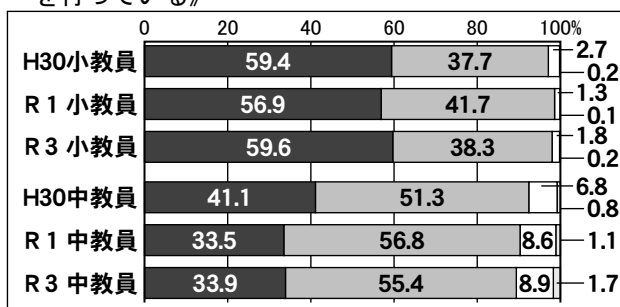
・《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で89.2%、中学校で86.3%である。また児童生徒質問紙調査結果では、《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で77.6%、小6で79.2%、中3で77.0%である。

### 3 家庭学習に関すること

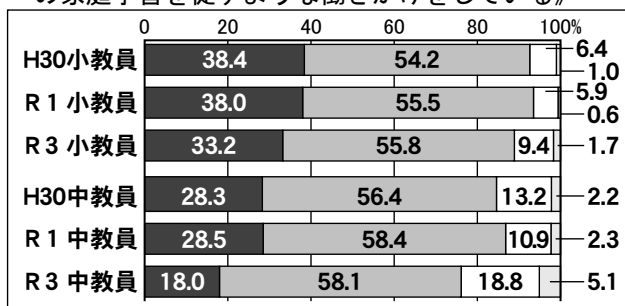
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》



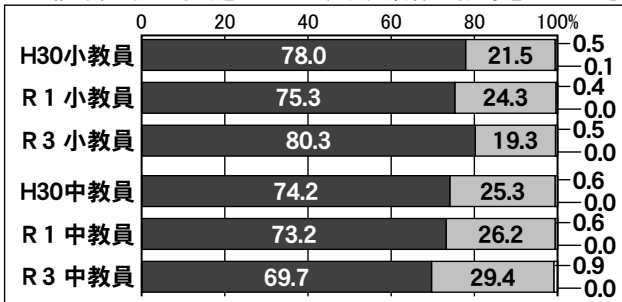
<肯定的な回答の割合が高い項目>

・《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、肯定的な回答をした小学校教員の割合は97.9%であり、これまでと同様に高い。

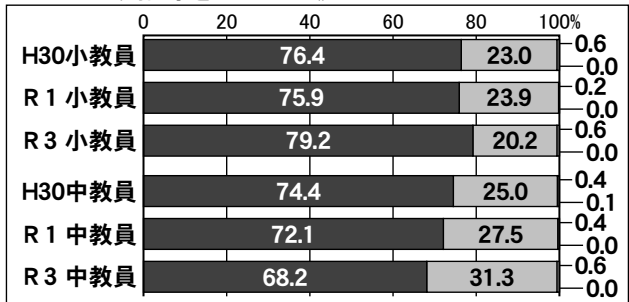
# 4

## 学習規律に関すること

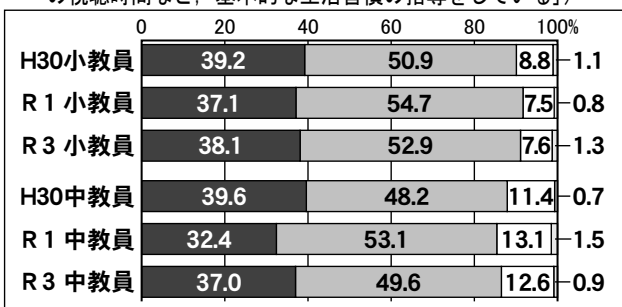
《児童生徒に、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）の指導をしている》  
 (※R1年度までは「私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど、学習規律の指導をしている」)



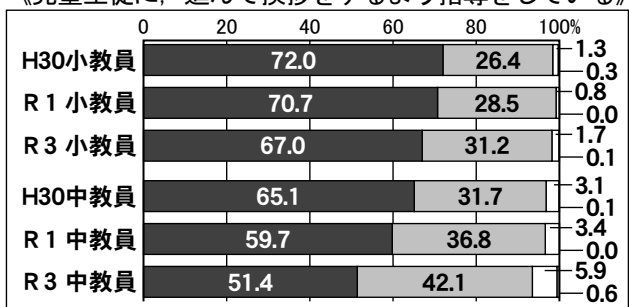
《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》



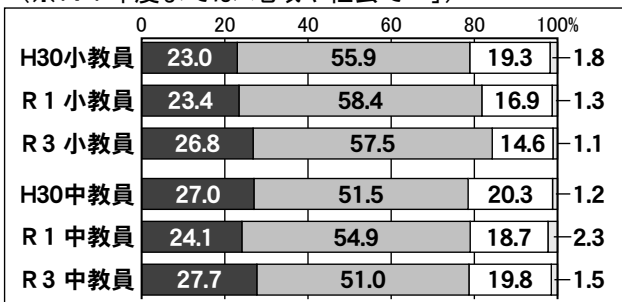
《児童生徒に、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など）の指導をしている》  
 (※R1年度までは「児童生徒に、早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など、基本的な生活習慣の指導をしている」)



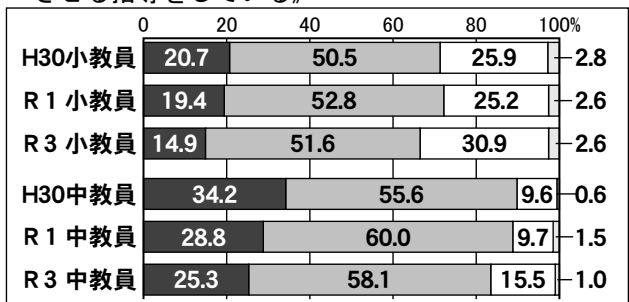
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



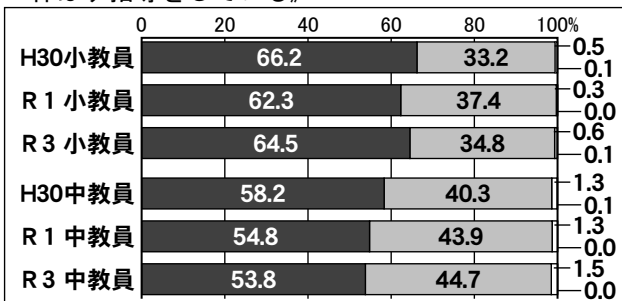
《児童生徒に、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》  
 (※R1年度までは「地域や社会で～」)



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



### <肯定的な回答の割合が高い項目>

・《児童生徒に、学習規律（私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど）の指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.3%～99.6%、中学校で98.5%～99.5%であり、これまでと同様に高い。

### <R1年度と比べて上昇した項目>

・《児童生徒に、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を持たせる指導をしている》について、「よくしている」と積極的な回答をした教員の割合は、R1年度より小学校で3.4ポイント、中学校で3.6ポイント、それぞれ増加している。

## 改訂 いしかわ学びの指針12か条【<sup>プラス</sup>学びの12か条<sup>+</sup>】

### 活用力を高める授業づくり

#### 1 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ・得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ・他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする

#### 2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める
- ・各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

#### 3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ・思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

### 学力・学習を支える基盤づくり

#### 4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ・目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ・相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う姿勢や態度が身に付くようにする

#### 5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ・目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ・文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

#### 6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ・多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ・目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

#### 7 主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進

- ・ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
- ・学校・地域にあるリソースを生かし、ICTの活用スキルの確実な定着を進める

#### 8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ・家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ・豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

#### 9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

- ・家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ・社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

### 指導改善を進める体制づくり

#### 10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ・学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ・小中連携を推進し、指導の連続性を図る

#### 11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ・児童生徒の現状把握からその原因を究明し、目標に照らした課題と、その改善に向けた具体策を設定する
- ・中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向け、スモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

#### 12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ・学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ・地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域の子どもの育てる環境づくりを進める

令和3年度

「基礎学力調査」－分析・考察と指導事例－

令和3年10月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1827

e-mail : [gakusi@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:gakusi@pref.ishikawa.lg.jp)